

第九次総合計画策定に向けた まちづくり意見交換会 開催一覧(団体・町内会)

No.	団体等名	開催日	開催場所	参加人数
1	丹生川町瓜田・大谷・法力町内会	7月31日(月)	法力地区活性化センター	17
2	テラコヤイチ実行委員会	8月4日(金)	往還寺	5
3	高山建築組合	8月9日(水)	市役所会議室(中会議室)	9
4	NPO法人もふっこひだ	9月7日(木)	市役所会議室(002会議室)	7
5	(公社)岐阜県宅地建物取引協会飛騨支部	9月8日(金)	飛騨・世界生活文化センター	17
6	NPO法人飛騨高山わらべうたの会	9月11日(月)	ファミリーサポート事務局(総合福祉センター2F)	26
7	(一社)奥飛騨温泉郷観光協会	9月13日(水)	奥飛騨総合文化センター	11
8	(一社)高山市文化協会	9月14日(木)	市民文化会館 2-5	11
9	岐阜県森林組合連合会 飛騨林産物共販所	9月15日(金)	飛騨林産物共販所 入札室	18
10	高山北商工会	9月28日(木)	高山北商工会館	20
11	(一社)もちもちびと	10月3日(火)	ひるねこ(神明町)	11
12	高山西商工会	10月4日(水)	ウッドフォーラム 飛騨 和室	23
13	清見町乳幼児学級 わくわく教室	10月5日(木)	清見福祉センター	4
14	石浦町町内会	10月7日(土)	石浦町公民館	9
15	岐阜県助産師会 飛騨支部	10月7日(土)	市役所会議室(中会議室)	9
16	西之一色町内会	10月11日(水)	西之一色町コミュニティセンター	4
17	東栄町町内会	10月13日(金)	東栄町公民館	14
18	高山歯科医師会	10月20日(金)	市役所会議室(中会議室)	14
19	高山南商工会	10月20日(金)	七宝館	10
20	荘川町町屋町内会	10月26日(木)	荘川町町屋公民館	9
21	高山要約筆記サークル 和の会	11月1日(水)	市役所会議室(中会議室)	5
22	中山町内会	11月2日(木)	ビッグアリーナ多目的室	23
23	新張町内会	11月8日(水)	新張公民館	11
24	大新町5丁目町内会	11月12日(日)	大新町5丁目町内会館	8
25	平湯町内会	11月16日(木)	平湯公民館	12
26	一重ヶ根町内会	11月29日(水)	一重ヶ根公民館	11
27	上野町内会	11月30日(木)	上野町公民館	19
28	北方町内会	12月11日(月)	北方公民館	12
29	こどもミライ輝くあさひ・たかね	12月18日(月)	朝日支所	17
	合 計			366

第九次総合計画策定に向けた まちづくり意見交換会 開催一覧（まち協）

No.	まちづくり協議会名	開催日	開催場所	参加人数
1	江名子校区まちづくり協議会	11月7日(火)	江名子小学校 第二体育館	20
2	北地区まちづくり協議会	11月9日(木)	北小学校 第二体育館	8
3	大八まちづくり協議会	11月10日(金)	東小学校 軽体育館	11
4	みなみまちづくり協議会	11月13日(月)	南小学校 多目的室	27
5	たからまちづくり協議会（上宝地域）	11月14日(火)	上宝支所	11
6	朝日まちづくり協議会	11月15日(水)	朝日支所	11
7	三枝の郷まちづくり協議会	11月16日(木)	三枝小学校 多目的室	23
8	国府町まちづくり協議会	11月17日(金)	国府支所	20
9	荘川町まちづくり協議会	11月21日(火)	荘川総合センター 会議室	22
10	丹生川まちづくり協議会	11月27日(月)	丹生川支所	35
11	一之宮町まちづくり協議会	11月28日(火)	一之宮公民館	12
12	高根まちづくりの会	12月1日(金)	高根支所	28
13	たからまちづくり協議会（奥飛騨温泉郷地域）	12月1日(金)	奥飛騨総合文化センター	9
14	久々野まちづくり協議会	12月4日(月)	久々野多目的センター	40
15	西地区まちづくり協議会	12月5日(火)	西小学校 2階マルチ	6
16	山王地区まちづくり協議会	12月6日(水)	山王小学校 会議室	10
17	清見町まちづくり協議会	12月8日(金)	清見支所	29
18	岩滝まちづくり協議会	12月12日(火)	岩滝公民館	15
19	新宮地区まちづくり協議会	12月13日(水)	新宮公民館 2階	18
20	花里まちづくり協議会	12月14日(木)	花里小学校 特別活動室	17
21	空町まちづくり協議会	12月19日(火)	煥章館	8
	合 計			380

第九次総合計画策定に向けた まちづくり意見交換会(各種団体・まちづくり協議会) 意見概要

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
1	労働	いつまでも観光に頼る訳にはいかない。企業誘致など雇用の場の確保を図ってもらいたい。産業のバランスを取りながら、市全体として雇用を考えてもらいたい。	働く場の確保
		魅力ある職場が地域に少ないため、地元には戻らないと思う。自分の能力が活かせる企業の誘致が必要である。	
		観光事業による地域経済の活性化も必要だが、企業誘致など雇用の場を創出することにも力を入れて人口増加のための政策をすすめてほしい。	
		市内に魅力的な就職先(福利厚生が充実、魅力ある仕事)が必要かと思う。	
		若い人が戻ったときに働ける場所がない。帰ってきたい気持ちはある人がいると思うが、働く場所がない。企業誘致など取組みをすすめてもらいたい。	若者・女性の活躍
		若者が帰って来れるよう企業誘致に力を入れて働く場を確保ほしい。	
		子育て世代が少ない。進学等で離れた方が戻ってくることが重要であり、雇用の場の確保など、人の取り合いのなかでつなぎとめる方策を考えていかなければならない。	
		子どもが帰ってきた場合の就労の場の確保を図ってもらいたい。Uターンや移住で入ってくる人の受け入れが重要と考えている。	
		若者流出を止めるため、雇用機会の創出が必要である。IT企業の誘致はできないものか。	
		子ども達が、帰ってきたくなるふるさとにしたい。大学、専門学校、企業の誘致を望む。	
		雇用機会を創出しないと人は来ない。行政で企業誘致してもらわないと都市部に出ていった若者は帰ってこない。この地では、自身で仕事を創らないと(見つけないと)生活することができない。	
		身内に高校生がいるがやはり市外に進学や就職をしよう。企業誘致に力を入れ、若者が戻るような魅力的な就職先があると良い。市内に限らず、近隣、県内にあると良い。	
		近年、通信技術の向上やコロナの影響により、リモートで仕事することが多くなっている。若い世代が都会で仕事をしなくてすむように情報通信環境を整備して、リモートで仕事がしやすい地域を目指してほしい。また、空き家に情報通信環境を整備して、サテライトオフィスとして活用しても良いかと思う。	
		子どもたちが将来帰ってきて、安心して働くことができる企業の誘致や育成を進めてほしい。	
		若者が帰って来ない原因は、働く場所がないことが大きい。帰って来られる基盤となる勤務先があると良い。	
		ある地域で林業に力を入れたことで、都会から森林に魅力を感じている若者が働くため移住し地域の活性化につながった話を聞いた。市も何か若者を呼び込むための原動力となるような施策を打ち出してはどうか。	
		高校生の市外流出を防ぐため、市内就職者に対して祝い金などの助成を検討してはどうか。	
		若者の流出防止に向けた取組みを行って欲しい。魅力的な仕事がなく、働く場所がないから出て行ってしまう。企業誘致などで働く場を確保して欲しい。	
		女性活躍を推進するためには、市役所をはじめ、市内で従業員が多い企業や金融機関などが一緒になり、男性の働き方改革や家事の時間を増やすための取組みが重要であると思う。この取組みがうまくいけば、その男性の配偶者が働きやすくなり、結果として女性活躍を推進することになると思う。女性活躍のために、女性に上の立場を目指してもらう意識付けも大切ではあるが、それ以上に男性の働き方を変えないと、女性は上を目指さないと。市役所と他の企業と一緒に、男性職員に対する研修などを実施してはどうか。	
		Uターン移住等の助成制度については、35歳と年齢を制限しているが、高齢になって移住してきた人も地域で活躍してくれているため、40代、50代の方も対象としてほしい。	
		仕事はそこそこあるものの、人が集まらず、その仕事を受けられない。人材確保に取り組んでもらいたい。	人材確保
		丹生川地域は農業などの第一次産業が盛んであるが、今後この産業を維持していくため、就業者の確保に向けて取り組んでいく必要がある。	
		上宝町では農業をする方の人材不足により仕事はあるが、規模を縮小しなければならない場合がある。日本人向けの中長期の農業体験(研修)や外国人向けのワーキングホリデーで働きながら日本語も学べる政策をお願いしたい。	
		過疎地域について外国人労働者を確保することが困難であるため、例えば高山地域に居住する外国人を雇用する施策として交通費の支給等助成ができないか。奥飛騨温泉郷で働いている外国人労働者が時給の高い高山地域のホテルの求人情報を見て転職するケースがある。	
		外国人技能実習生の受入人数について、企業の規模に応じて雇用できる人数が制限されているため、多くの外国人労働者の確保が見込めない。	
		外国人労働者の運転免許取得に対する助成制度を検討してほしい。	
		今後、外国人労働者が増えると思われるため、居住支援など外国人が住みやすい環境づくりに取り組んでほしい。	
		人材不足の中、市街地のホテルの増加に伴い客室清掃事業者が手一杯となり、事業者が奥飛騨温泉郷地域に来てくれる日が少なくなった。	
		働き手の確保が難しい。採用しても数年で従業員が辞めていくようなサイクルが続いており、サービス不足による満足度の低下を懸念しているところである。職場体験など事業者側においては、いつでも受け入れの対応ができるため、市から学校に対して依頼するなど地元への就職を促進するような取組みをすすめてほしい。	
		求人してもなかなか応募がないため、地元企業と地域も一緒になって呼び掛けてほしい。	
		60歳を過ぎると働ける場所が少ない。再就職できず失業保険で生活している人もいる。職の受け皿がほしい。	
		新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き観光客は戻りつつあるが、従業員不足ですべての宿泊客を受け入れることが困難な状況であるため、人手不足対策を積極的に取り組んでほしい。	
		観光都市なので人手不足は観光分野の満足度に影響されるため、人材確保に力を入れてほしい。	
		転入者を増やすため、魅力あるまちであることをもっとPRした方がよい。飛騨市は効果的にPRして様々な業種の方が移住して活躍している。	
		市民アンケート結果で重点的に取り組む課題に「雇用の場の創出」とあるが、人材確保の支援策としてマッチングイベントを開催してほしい。	
		地域の小規模事業者にとっては雇用確保が難しい。	
		県は飛騨地域の既存の医薬品メーカーの立地を活用しつつ、自然豊かなクリーンな立地環境を背景として新たなヘルスケア産業を中心に企業集積に向け企業誘致戦略をすすめているが、そういった企業を誘致できていない。大学の理工学部を卒業した学生の就職場所がないため、もっと県と連携して企業誘致に力を入れてほしい。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
1	労働	八次総合計画に示されている人口推計と現在の人口に差異は生じているのか。従業員の確保が厳しいため、人口減少に対して対策をする必要がある。	人材確保
		高山地域において近年ホテルが多く建っているが従業員は確保できているのか。	
		水産卸を営んでいるが、雇用・人材がそろわない。ハローワークの求人や広告などを打っても人が来ない。学校へのアプローチもハードルが高くできない。市内の中小・零細企業はPRや支援について市の後押しが欲しい。	
		生産年齢人口が著しく減少している。農業、観光等の今ある産業を支える人材の確保について不安を感じている。	
		入込客数が特定の季節にピークとなる観光事業者が多いため、雇用については通年で従業員を雇用するのが難しい。	多様な働き方
		働きたい時間と働いてほしい時間をマッチングするバイト募集サービスがあるが、このようなサービスを丹生川地域でも取り入れたらどうかと思う。高齢者など条件にあった働き手とのマッチングができ、人材不足の解消につながる方法かと思う。	
		少子高齢化がすすみ、人手が足りないという話がある。健康な高齢者は多いことから、高齢世代をうまく雇用の場に活用してもらいたい。健康のうちは活動できる場を提供することにより、医療費の削減や要介護認定者の減少などメリットもある。高齢者を活用できるシステムの構築を図ってもらいたい。	
		地域の活性化について、働き口などの問題を地域で支えるシステムが必要であると感じている。高齢者の働き口があるということはいいことであると思う。	
		働きやすい環境づくりとして子どもを預かる事業所が各地域にもあるといい。	
		一つの仕事を長くしなければいけないという価値観は時代にそぐわないと思う。時代にあった考えとこれまでの大事な考えが総合的に融合したまちが必要かと思う。	
		人口減少については働く場所や多様性が少ないというのがあるのではないかとと思う。	
		木工技術を学ぶために県外から市に転入するが、学んだ後は市に就職する人が少ない。移住者の確保として市で就職したいと思えるようにPR活動に力を入れてはどうか。	
		飛騨地域で転職希望の方のバスツアーが行われ、職種が増えているという話を聞いた。職場を体験することによって、仕事を知る機会になると思う。そのような取組みが増えると良い。	
		高山へ帰ってくる人の働き先を含め、仕事が安定していることにより地域へ定着ができる地域づくりを目指してほしい。	安定した雇用
		進学・就職により市外、県外へ転出した方に対するUターン促進の取組みが必要である。	
		子どもが都会で就職しているが、都会と比べると賃金が低いため、帰ってくる気がない。賃金向上を促進するような施策を検討してほしい。	
		若い人が住まない理由は、職種が少ない、給与が低いことであり、その現実を踏まえて市として対策を打ち出して欲しい。	
		物価は上がったが、賃金は上がらないままである。	
		都会に比べると賃金が低く、賃金が高い県外の企業に就職してしまう。	
2	産業	旧清見プラネタリアムを教育関連の団体が利用する構想になっているが、こういった団体とタイアップして清見の造成地に関連する企業を誘致したらどうか。	魅力的な産業の誘致
		交通の便が悪く、冬も雪で厳しく、輸送などにもコストが掛かり、このような山間部には企業誘致は厳しいと考える。立地条件が厳しいこの地域に企業誘致を目指すよりも、情報通信環境の日本一を目指し、主要都市から離れている等の物理的に不利な条件をカバーするような環境を整備してほしい。	
		学校の統合により荘川中学校が廃校になるが、今の内から企業誘致候補地の1つとして位置付け、誘致活動をすすめてほしい。	
		市町村民所得のランキングが発表され、市は近隣市より低い順位であった。観光事業だけでは市は豊かにならないのではないかと感じた。企業誘致を積極的にすすめ、市内産業の活性化に取り組んでほしい。	
		働く場もなく、給与も低いため、都会で働く若者は帰ってこない。歴史、文化、自然、食文化をより観光客に満足してもらうよう観光業をベースに各業種を磨き上げ、魅力ある産業をつくる必要がある。	
		荘川中学校を有効活用してくれる企業を探してほしい。	
		小さい頃から地場産業を知ることが大切であり、産業会館など作業過程を知る・体験できる場所があると良い。	市民・若者への周知
		白鳥町で、かんなどを使った体験活動を実施し、参加した子ども達は非常に喜んでた。木に親しむ活動をもっとしてほしい。大工の担い手不足の解消につながっていくと思う。	
		当組合は文化財保護活動により伝統建築を継承しているが、大工への成り手が減少している。小学生から職業体験するなど小さい頃から大工に対して興味を持つ機会の提供が必要かと思う。市内で大工に関連した体験イベントを実施してはどうか。	
		ふるさと納税の返礼品として地域を巡る体験ツアーを加えてほしい。	
		ふるさと納税の返礼品に飛騨の匠が作った小屋(建物)などはどうか。	地場産業の活性化
		個人の木工や陶芸、ガラス作家などが増えているため、作品を発表できる場所や機会を確保して、個人作家が創作しやすい環境づくりに取り組んでどうか。	
		行政が管理するインフラ施設以外に市民生活に欠かせないガソリンスタンドや小売店など民間が管理・運営する生活インフラ施設があるが、人口減少等で維持していくことが困難となっているため、地域の生活インフラ施設に対する支援を検討してほしい。	
		三枝地区は、中部縦貫自動車道の入り口であり、利便性が良いことから、物流基地を置くことを政策に盛り込んで欲しい。今後鉄道による物流が増加することが予想され、上枝駅も活用した物流拠点になれると思う。	新たな産業の創出
		市内でワイン製造を始めた方がいると聞いたが、新たな産業として市としてワイン製造を本格的にすすめていけば良いと考える。	
		支所地域の魅力をどのように掘り起こすのが重要かと思う。地域の活性化のため、魅力創出事業に取り組んでほしい。	
		全国的に川魚が不足している状態である。養殖を始めるにも大きな投資が必要なことから、踏み出せないため、市として資本投資に対する支援を検討してもらいたい。	
		「高山は作り上手の売り下手」と聞いたことがある。米、野菜、家具、工芸、肉等々世界に誇れるものがたくさんあるので、メディア、SNS、めでたの会等あらゆる手法を使ってPRできたらと思う。	効果的な情報発信
		飛騨高山というだけでブランド力が非常に強い。もっと何にでも飛騨高山産をアピールして、都会に対して物を売り、新たな商品開発にも力を入れてほしい。企業任せではなく、タイアップして真剣に取り組む部署が必要だと思う。これに伴いふるさと納税や各企業の売上向上による税収のアップ、さらには観光や移住者に対しても良い影響が望めるかと思う。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
2	産業	外国人観光客は増加したが、市内経済への効果が日本人観光客と比較して、薄いと実感している。飛騨牛や農産物同様に、水産物(塩ぶりや汐イカなど)のPRに市も協力して欲しい。	効果的な情報発信
		西商工会としては、活力ある若手事業者や高齢化が進む事業者に対する事業承継について支援を続けていきたい。	担い手の確保
		西商工会について後継者候補がいないと回答した割合が管内の7割を占めている。後継者候補がいけない背景として、事業所兼住居の小規模事業者が多いため、第三者に事業者を承継した場合、住居の確保が課題と感じている。また、別の事業所へ設備を譲る場合も設備移設の課題もある。住居確保や設備移設に対して支援があると事業承継が進みやすくなると思う。	
		人口減少すると当然顧客数が減り、小規模事業者にとっては売上が減少することが目に見えており、将来の事業継続に不安を感じている。	
		各種補助金の申請について電子申請が増えてきており、高齢事業者にとっては順応できるかが課題である。	DXへの対応
		コロナ禍を経て徐々に観光客が戻りつつあるが、一方で域外資本のホテルが目立ち、本当に地域が潤っているのか疑問に思う。	地域経済循環の見える化
3	農業・畜産業	農業の後継者が出て行ってしまう、農家が空き家になっている状態もみられる。後継者の育成に取り組んでもらいたい。	担い手の確保
		農業の後継者不足を危惧している。	
		農家の高齢化や後継者不足により耕作放棄地が今後増えてくると思われる。何か対策を講じる必要がある。	
		農家に担い手がいないと耕作放棄地が増加する。人づくり・担い手づくりの取組みを望む。	
		畜産業について、全共の岐阜県開催を控える一方で、担い手の高齢化や廃業が出ている。若い人はやりたがらない。働き方改革を市で指導し、2日は休んで休んだ際の世話を市を雇用するなど、取組みをすすめて欲しい。	
		農業があと何年続けられるかという人が多い。遊休農地の拡大やブランドの低下が危惧される。市内の農家同士のマッチングを市が行い、規模拡大や販路拡大を目指して欲しい。	
		後継者不足で農業をいつまで続けられるか不安である。また農地を手放そうにも農振の関係で手放すことができない状況にある。	
		地域の特産品である山椒などの農業事業者の担い手が不足しているため、事業承継の促進などに取り組んでほしい。	
		農家が減少している。上宝は農業用水の延長が長いと、地元負担が高く、受益者も減ることから負担が増加し、払えなくなると危惧している。農業だけでなく防火や生活用水としても活用しており、地元負担について検討してもらいたい。	農業施設整備
		農業用水は、防火用水としても兼ねており、維持していく必要があるが、管理が大変になっている。大規模な修繕は要望してもなかなか実施してもらえない。農地や農業用水を大切にしてもらいたい。	
		農業用水等の整備について町内への負担を軽減できないか。	
		土地改良でパイプラインを設置したが、30年が経過し、漏水が発生するなど更新を検討しなければならない。農地が広大なため、費用が多額となることから、国や県へも働きかけをしているが、市としても負担が大きくなることから、今のうちから準備・検討をすすめてもらいたい。	
		新たな公設卸売市場の建設について、安定的な経営がされるようしっかりとすすめてほしい。	
		北方地域の用水路について、昔から子どもの転落防止などを目的に蓋をするよう要望していたが、改修するまでに至らず、現在、地域には子どもがいなくなった。要望に対しては迅速に対応してほしい。	
		当地域ではパプリカの栽培が盛んである。観光と農業を取り入れた政策、地域食材の活用等で農業振興を行ってほしい。	農業を起点とした地域活性化
		丹生川地域はトマトなどの農業が盛んな地域であるため、こういった産業を活かした地域の活性化策を検討してほしい。併せて集荷場などの関連施設の整備を望む。	
		地域活性化のため、農業と観光業が連携して取り組むことができればと思うが、それには各業種をつなぐ、コーディネーターのような人材の配置・育成が必要であると思う。	
		繁殖農家は子牛の価格が下落し、今後の生活に不安を抱えている。県外に種付けすると価格が高く魅力的だが、それを飛騨牛と呼ばれることに葛藤がある。飛騨牛を守っていききたいと、市の支援をお願いしたい。また肥育農家に対しても県内産の肥育の場合の支援など、飛騨牛ブランドを守る取り組みへの支援を望む。	
		飛騨高山ブランドを支えている農家・畜産業は現在苦しい状況にあるため、これに寄り添った施策を講じてもらいたい。	
		直近で到来するであろう、食料危機に対応すべく、また飛騨牛やトマト、ほうれん草に負けない、新たな米や野菜を高山産として生産を強化してみてもどうか。	
		野菜、果樹、家畜など何をつくってもおいしいものができ、高山は美食のまちであると思う。長野県、山梨県などでワインを製造しているが、同じく山岳地域であるこの高山もワイン製造に適していると思われるため、新たな産業の創出として市が出資してでも、積極的に取り組んでどうか。	
		丹生川地域は農業が有名であり、さらなる農業の発展のため、情報発信を考えているが、どのような方法で実施すれば効果的であるのか検討しているところである。	効果的な情報発信
		粗飼料の価格が高い。コロナ禍では牧草が入って来ないときがあった。一人農家が多く自給飼料は難しい。JAも巻き込んで、遊休農地を活用した粗飼料の生産に取り組んでほしい。	農地対策・活用
		果樹農家が減少し、放棄地が広がっていく。休耕地の調査を行い、支援してもらいたい。	
		耕作放棄地対策として農業振興地域については農地として守るべき地域と転用する地域を線引きし、守るべき地域のみ支援していく方向で良いかと考える。支所地域の農業振興地域を見直して良いと思う。また、農地のプラットフォームを創設し、遊休農地を増やさない取組みをしてはどうか。	
		耕作放棄地を増やさない方策として、農業を営んでも採算が取れる仕組みを検討した方が良いのではないかと考える。	
		耕作放棄地が増加していくと考えられるため、兼業で耕作している方を対象とした助成制度を考えてはどうか。	
		農地転用で困っているという話を聞いた。手続きの簡素化や転用できる対象の拡大などを検討してもらいたい。	
		農地の取得規制について、ある程度農地を所有していないと農地を購入できないと聞いている。耕作放棄地対策や空き家対策として、例えば、移住者や非農家を対象に農地と空き家をセットにして売却することを検討してみてもどうか。	
		イノシシやシカ等野生動物による農作物の被害が多発している。捕獲してジビエなどに活用するなど民間と連携した取組みを検討してほしい。	獣害対策
		鳥獣害による農作物への被害が深刻になっている。色々対応するものの、被害が減少する様子もない。自然災害(天災)だけではなく、獣害への対応についても計画において盛り込んで欲しい。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
3	農業・畜産業	新型コロナウイルスの影響で、市内の観光業が低迷した時に、野菜が売れなくなったという声は聞かなかった。つまり地元で消費されていないことだと思う。観光業も必要だが、地産地消を推進し農業のさらなる活性化にも取り組んでほしい。	地産地消
4	林業	林業の状況も芳しくないため、山が放置されている。強い志を持って治山治水の取組みを考えて欲しい。熱海のような悲惨な状況にならないようにしてもらいたい。	手つかずの山林への対応
		相続後放置されている森林の活用計画を検討する。	
		境界を把握している方が存命のうちに、森林境界の明確化を早期に実施してほしい。	境界明確化の促進
		森林環境譲与税による森林境界明確化事業が計画されていると思うが、市単独でも同事業費に対して上乗せし、事業の加速化を図ってほしい。	
		市内の方は木のことにあまり興味を持っていない。森林が多い市であるため、“山の都”“木のまち”としてももっと木を活用すべき。例えば木を活用した小物づくりに力を入れて身の周りのものから木を使い、木に慣れ親しむ機会をもっと提供していけば良いと思う。	木の活用
		木造建築物や伝統構法の木造建築物に対する耐震補強に対しては補助金があるが、さらに市産材を活用した場合には補助率を上げるなど検討してほしい。	
		木工といえば、北海道と飛騨が盛んであり、木材の有効活用について取組みをすすめてもらいたい。飛騨で作られた木の遊具などを使って遊べる場所は市内になく、森で遊べる場所もないため、木材や森の活用を検討して欲しい。	
		日本一の森林面積を有する自治体として林業振興にもっと力を注いでほしい。	林業振興
		50年、60年に経った森林を間伐しても節等があるため木としての価値がなく買い手があまりいない。植林から10年スパンで伐採するなど間伐については計画的に実施してほしい。また、皆伐に対する支援を検討してもらいたい。	
		市有林の伐採・管理を小規模事業者にもやらせてもらいたい。	
		意見を聞くだけの意見交換会は意味がない。今日出た意見に対して、いつ・どのように対応するかなど明確なことを示してもらって意見を伺ってほしい。	
		様々な林業事業者を集めて、意見を聞いても課題解決にはつながらない。担い手や植林、伐採、販売の各分野に一律に聞くのではなく、個別に聞くなどして意見を聞いた方がよい。	
		農業でいう農協のような組織を飛騨市、郡上市では行政が旗を振って協議会として組織したが、高山市にもそういった小規模林業をまとめる団体を組織してほしい。	
		私有地を伐採するため、所有者と交渉するが、所有者は伐採に関連した補助金があることを知らないため、交渉がスムーズにすまない。私有地の伐採を促進するため、伐採に関連した補助金を所有者に対してもっとPRしてほしい。	
		人工林の伐採から植林するまで行政に対して必要な手続きがあるが、小規模事業者にとっては、現場で仕事をしながら並行して手続きすることは困難である。手続きの他、境界確認等ソフト面に対して代行支援するような団体について森林環境譲与税を活用して組織・運営することができないか。	
		他の業種(特に農業)に比べると林業就業者に対する支援が少ない。	
		林業に対して新規参入するにはハードルが高い。初期投資が高いものの木材の価値が低くなっているため、手厚い支援制度を検討してほしい。	
		人工林の伐採も必要であるが天然林の伐採についても取り組んでほしい。	天然林の活用
		担い手対策が重要である。間伐、林道整備等林業事業に対する業務量は膨大にあるが、担い手がいないと十分に事業をすすめることは難しい。Uターン等移住者を雇用することも必要だが、それよりもまず市民が林業に携わるような取組みをすすめてほしい。木育などを通して小さい時から林業を知って学ぶことが必要かと思う。	担い手不足への対応
		人口減少が進む中で林業就業者を増やすことは困難であるとする。計画書等で市として林業就業者を増やすという目的を明示しPRすることで、魅力的な仕事の1つであると感じる方も増えるのではないかと思う。	
		新規就業者のための研修できる現場がほしい。小規模事業者にとっては育成しながら仕事をすることは現場での作業が十分に進まず収入の減少につながるため、行政等で育成できる支援や組織を検討してほしい。	
		林業において個人経営の小規模事業者が増えている。他業種にもあるように林業に対しても後継者を育成するための支援制度を検討してほしい。「緑の雇用」支援のような林業就業希望者のトライアル雇用から研修受講支援など人材育成を目的にした支援制度が特に必要かと思う。	
5	商業・工業	買い物に行きたくても商店は夕方になると閉店となり、結局車で郊外に行かないと夜に買い物ができない。夜間でも買い物に行けるような方策を考えてもらいたい。	買い物支援
		荘川地域には、商店が5、6店舗あり、何とか生活必需品を購入できる状況であるが、あと数年で後継者がいなくなり半分くらいは閉店すると思う。	
		Aコープが閉店するが、店舗跡地に小売販売事業者の誘致を検討してほしい。販売物品が限られる移動販売ではなく、店舗販売の継続を望んでいる。	
		大学等への進学で高山から出ていくが、Uターンのための環境整備が必要と思う。IターンもあるがやれるところはUターンだと思う。今やっている取組みでも増えないのであれば違った取組みが求められている。	
		後継者不足などにより地元商店の閉店や撤退が続くが、高齢化に伴い買い物難民が増加すると思われるため、事業承継など地元商店を残す対策を講じる必要がある。	
		地元商店の撤退等が続いている。近くで買い物ができる環境を維持するため、スーパー等を誘致してほしい。	
		移動販売事業を継続していただくために、販売促進に取り組む必要がある。	
		買い物できる場所(店舗)が近いようで実は遠く、買い物に困っている住民への配慮・支援があれば良い。	
		地域にある商店と協力し高齢者に対する販売支援について検討してほしい。他の地域では移動販売車の運行が実施されているが、荘川地域は地元商店等が一定数あるため、返って既存の商店の経営を苦しめることになる。	
		就職説明会などを開催しているが、企業を知る機会として年間を通じて会社説明会を開催できると良い。	市内事業者・取組みの周知
		高山市は強いブランド力がある。特に木工と食、自然は全国屈指。この強みを活かして移住や観光を強力に進めてほしい。	
		息子が店(時計修理店)を継いで、自店舗のホームページを開設し修理技術をPRしたところ、県外からもお客さんが訪れるようになった。人を呼び込み対策の1つとして優良な技術者や店舗を市で把握してPRしてはどうか。	
		市内飲食店において、原材料の表示を積極的に行ってほしい。市の取組として働きかけてはどうか。アレルギーのある子を持つ家庭への配慮にもなる。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
5	商業・工業	移住や起業に対して補助金などを支出しているが、果たしてどれだけ市への貢献(雇用が生まれているのかなど)があるのか疑問に思っている。銀行などと連携して、補助ではなく投資できるシステムがあれば、リターンが生まれ、市民へのメリットも感じられるのではないかと。	市内事業者・取組みの周知
		車社会の地域なので、商店街の活性化には駐車場の確保が必要である。	商店街の活性化
		空き店舗を活用して、行列ができる人気店を呼んで欲しい。	
		アーケードを整備することで、冬季でもまち歩きが容易となり、自転車の利用も活性化し、健康づくりにもつながると思う。	
		観光客が多く、朝市やまちなかにある昔ながらのお店などには長い行列ができるなど、市民の方が訪れることが困難な状況となっている。このままでは今の子ども達は市内のお店を知らないまま育ってしまう。何かイベント等を開催して市民が楽しめる内容を企画してはどうか。また、子育て世代、若者層の意見を聞いて施策に取り入れてほしい。	
		高山は観光地であり車で移動が多いまちである。道の駅を整備してもらいたい。国の補助金をあてにするのではなく市独自で作って欲しい。問屋町の卸商業センターに道の駅を整備し、電気や水素ステーション、特産品の販売などを検討してもらいたい。	商業施設の整備
		平湯の駐車場整備に伴い観光客が根付くよう、ひるがの高原SAなどの魅力的な特産品を販売するような商業施設の整備について検討してほしい。	人材育成
		大型商業施設の誘致をお願いしたい。	
		今日の新聞記事を見たが、地域おこし協力隊のような人材の支援を、まちなかでも考えていただけるとありがたい。	
		工芸・民芸品関係の後継者が少ない。また将来今ある商店がどれだけ残るのかも心配である。	
6	観光	祭礼行事が人手不足と聞いており、うまく観光で来た外国人を巻き込めないかと思う。	担い手不足への対応
		ホテルの建設ラッシュだが、働く人が少なく稼働率が低い。飲食店でも同様となっており、せっかく高山に来た客がクレーンで帰る人が多くなっていると聞く。早急な対応が必要である。	新たな魅力の発信
		朝日地域に観光事業者が少ない。観光資源は豊富にあるがマンパワーがないため、市と協働して観光事業に取り組めたらと思う。	
		子連れの観光客を見て思うことが、市内には子どもが楽しめる場所がないと思う。子どもが遊びに行きたくなるようなものを考えてほしい。	
		観光協会への補助金について運営費に対しての補助はあるが、事業費に対しての補助がない。大きなイベントを開催したくても資金がないため、実施することができない。	
		国府地域では、日本の原風景を活かした観光に取り組んで欲しい。ワーケーションなど地域を活かした取組みを望む。	
		モンデウスパークスキー場を中心とした観光事業をすすめてほしい。また、グリーンシーズンにおいてもイベントの開催や、頂上から北アルプスを眺望できるようリフトの運行も検討してほしい。	
		位山交流広場をオールシーズン活用するためには、市外に対して積極的な宣伝が必要である。	
		地域にはたくさんの魅力が溢れているが、住民はその魅力に気づいていないと思う。体験型農業の実施やスポーツ巡りなど地域資源を活用した事業に取り組むべきと考える。新たな働き場が創出されることで、若者も帰ってくるのではないかと。	
		過去の遺産を活用した、現在の観光の形では、先が見えている。自然と健康を組み合わせたものなど新しい観光スタイルの創出も必要なのではないかと考える。	
		古い町並も土産店などが並んでいるだけで、人が生きづいていない。観光も見ただけで体感するものがない。人を惹きつけるもの、わくわくするものを提供しないと観光も廃れていく。	
		高山の観光は観光地でありながら生活を感じられるところが魅力だと思う。100年後に100年前も素敵なおまちだったと思われることを想定して、今から取り組むべきだと思う。(特にソフト・コンテンツ)	
		中橋の観光客の混雑状況をなんとかしてほしい。神明駐車場の交差点にはガードマンがいるが、中橋にも交通整理員を配置してほしい。	市民生活との調和
		観光客が日枝神社まで訪れるようになったが、観光バスが近くの狭い道路に停まって下車しているため交通安全上問題がある。バスの停車場所を確保してほしい。	
		神明駐車場から日枝神社に向かう道路沿いは近年駐車場が多くなっている。日枝神社まで観光客が足を運んでいるため、表参道のような形で観光として再整備をすすめてはどうかと思う。	
		ホテルが多く連ち宿泊数が伸びた影響で、夜の飲食店は満席で入店を断られるケースがある。一方、朝日町は比較的空いているため、飲食業者を誘致するなど対策をする必要があると思われる。	
		外国人観光客は宿泊料が安価な民泊を利用して長期間にわたり市に滞在しているが、外国人観光客の増加により喫煙マナーや交通ルールなどを理解されずトラブルや苦情が増えていると聞く。民泊を規制するなど住民の生活を第一に考えたまちづくりをすすめてほしい。	
		国内の観光客も含めてそれぞれ違った常識を持っている。高山にふさわしくないような常識、マナーに対して厳しく規制してはどうか。規制することで住民の生活の快適さの保持や観光地としての質も向上すると思う。	
		奥飛騨温泉郷地域においては、ビッグブリッジ構想や奥飛騨温泉郷活性化構想などの活性化事業に取り組んでいただいている。この地域は交流人口を増やして観光業を中心に活性化していく方向しかないと思う。活性化によって地域が豊かになることを望んでいる。	市域全体の活性化
		奥飛騨温泉郷活性化構想を計画した当時と現在を比較して、地域に変化があれば教えてほしい。	
		新徳高地域においては路駐問題がある。平湯地域の駐車場等をベースにしたパークアンドライドの推進を図ってほしい。	
		市街地においてはホテルが乱立している状況で、なおかつ飛騨高山温泉と新たなブランドができつつあり、飛騨高山温泉の評価の向上に伴い奥飛騨温泉の評価が下がってしまうことが心配である。昔から観光事業で地域を活性化してきた地元の事業者を支援してほしい。	
		中部縦貫自動車道の整備が進むにつれて、交通の便は良くなる反面、奥飛騨を素通りする可能性もある。奥飛騨温泉郷は関東方面からの東の玄関口であるため、観光客を引き留める事業を重点的にすすめてほしい。	
		市街地の暑い様子がテレビで紹介されているため、プラスのイメージとして奥飛騨温泉郷が涼しいことをもっとPRしてほしい。	
		奥飛騨温泉郷活性化基本構想については、平湯と新徳高地域が先行して事業がすすんでいるようだが、新平湯地域の事業はいつ頃実施するのかを教えてください。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
6	観光	飛騨の里の隣接地にホテル建設のため大規模な造成工事が行われているが、飛騨の里の今後についてはどのように考えているのか。	市域全体の活性化
		観光産業が栄えているのは高山地域のみで支所地域においては特に南側は衰退している。引き続き観光産業に力を入れていくのであれば、市全域の観光産業が栄えるように取り組んでほしい。	
		山岳観光にも力を入れるのであれば、登山客にも配慮した観光事業をすすめてほしい。	山岳観光の活用
		乗鞍の活用について、市はどう考えているのか。	
		奥飛騨、乗鞍を含めた山岳観光について計画の中に取り入れてほしい。	
		市内において自然を活かした観光業が多いが、スキー場がなくなるなど入込客数が特定の季節にピークとなる観光事業者にとっては収入が著しく減少してきているため、オールシーズンで人を呼び込めるような観光事業を考えていかなければならない。	
		地域の魅力を掘り起こして、若者が地元に戻ってきたくなるように地域の魅力を活発に発信する必要がある。また、マイナスイメージをプラスイメージに捉えるような発想の転換も必要である。	若者の活躍
		地元の住民が気付かない高山の良さや魅力は、観光に来られる方をリサーチし分析するなどにより分かるのではないかな。	誘客ターゲットの明確化
		観光客を受け入れられるキャパシティには上限がある。オーバーツーリズム対策として誘客したい客層を絞ってPRしてはどうか考える。	
		観光都市として観光客に対して宿泊税等を徴収する考えはあるのか。観光客がお金を落とす仕組みを検討する必要があると思う。	資金循環のしくみの検討
7	海外戦略	宿泊税の導入を検討するにあたり、支所地域への観光客を促すため、宿泊税を徴収するエリアを高山地域だけにし、各支所地域は徴収しないエリアとして差別化を図ってほしい。	
		インバウンドが弱い地域と言われるが、そもそも朝日地域に外国人観光客が来ない。支所地域に外国人観光客を誘致するよう力を入れ取り組んでほしい。	市域全体の活性化
		奥飛騨温泉郷地域は欧米人のインバウンドが多い。欧米人は農山村の風景を歩くだけで満足するようであることから、農山村も観光資源の一つとして捉え、インバウンドに対する事業をすすめてほしい。	
		欧米人は歴史文化財を好み市内を限なく散策している。歴史に興味がある外国人に向けて情報発信をしてもっとPRした方がよい。	効果的な情報発信
		海外に向けた販路拡大の支援や後継者問題の解消に向けて取り組んでほしい。	
		外国人は市街地外縁部の遠いところまで歩いている。何が魅力なのかを把握して、政策・誘客に活かすべき。	
		外国人の目から見ると、小学生が黄色い帽子を被って、集団登校する姿をきれいだと思うらしい。PRに活用したらどうか。	
		外国人は歩くのが好きであるため、外国人観光客をターゲットとした新たな散策ルートを整備できないかと思う。	
		外国人観光客が飛び込みで診療に来る場合がある。予約でいっぱい状態で対応ができない。宿泊施設の中には事前連絡してくれるところもあるが、対策を行って欲しい。	市民とのコミュニケーション
		今後、外国人観光客はどのくらい増加すると見込んでいるのか。現在、外国人観光客とは意思疎通が困難であるため、さらに増えると受け入れに対して不安を感じる。意思疎通が十分にできないことでトラブルに発展しないかも心配である。	
8	経済	高山地域ではボランティアガイドを高齢者に依頼しているのか。平湯地域は英語による案内ができていないのが現状で課題と捉えている。語学力が高い高齢者はいると思うので、そのような方を活用できればと考える。	
		起業へのサポートを充実させ、全国から人が集まるような取組みを考えて欲しい。	起業促進
		定住人口が減少傾向にある庄川地域は交流人口を拡大させることで、経済を活性化するという考えが以前からあった。ここ数年で交流人口は増えたかと思うが、観光振興等地域の活性化につなげる企業、人材、施設がない。	人材育成
		市町村民所得の順位を見ると県内では高山市は30位で近隣の市村と比べても低い。市内産業の活性化に取り組んでほしい。	市内経済の活性化
		施設などの箱ものは財政的にも厳しくなるはずである。コロナで市内の経済も打撃を受けた。市においても産業の選択と集中により稼ぐことができる経済の構築を目指してほしい。	
		住民一人あたりの市民所得ランキングが発表された。市は、飛騨市より下の30番目であった。この責任は、飛騨市より高い給料なのに仕事をしない市職員の体質にある。毎年、仕事をしないで予算を余らせ、基金を増やしたことで財政運営は健全であるとなっているのであれば、市民は貧しくなる一方である。まずは、30番目となる様市職員の給料を下げない為には、職員はどうあるべきかを考え、実行すれば、自然と市は活性化するのではないかな。「市民の所得を市職員並みにする」を総合計画に必ず盛り込むべきである。	
		地域経済が潤うような給付金の支給方法を検討して実施すべきである。	
		インボイス制度の導入や最低賃金の確保、休暇取得の促進について取り組んでいく必要があるが、国府地域は小規模事業者が多く、経営、働き方への対応について課題を感じている。	
		高山地域と支所地域については生活レベルに格差を感じる。支所地域はガソリンスタンドなど生活インフラ施設を維持していくことが困難となっているため、市民生活に欠かせない施設運営等に対しての支援を検討してほしい。	
		外資系企業の市内への進出が増えることによってお金が域外へ流出してしまうことなどを危惧している。	市内資金循環
9	保健・医療	市外、県外からの企業が市内に進出しており、地元事業者を圧迫しているのではないかなと思う。地元事業者が事業を継続できるよう進出抑制や支援を検討してほしい。	
		奥飛騨温泉郷内の飲食店等の観光関連施設においてはクレジットカードを利用できるところが少ないため、休日・夜間でも使用できるATMを設置してほしい。濃飛バスに対してもクレジットカードに対応できるよう要望してほしい。特に外国人観光客において現金をあまり持っていないため、支払いに困るケースがある。	
		観光都市としての地位は向上したが、それに伴って市民の生活レベルは向上していない。観光地としては成功していると思うが、地域内でお金が回っていないのではないかな。	
		医療機関が地区に一つもないのは不安である。	身近な医療環境の充実
		高度な医療を受けるには遠方へ通わないといけないため、医療の充実化を図ってほしい。	
		住居が点在している高山市では、往診や訪問看護が取り巻く環境は都市部とは全く異なるものである。国では様々な施策を出しているが、高山市の環境ではそれにそぐわないと感じられるものもあり、国の施策に抗う市であって欲しい。	
		65歳以上のインフルエンザの予防接種の助成については、満年齢ではなく、年度内に65歳になる方全てを対象にしてほしい。	
		人口増加のためには誰もが安心して暮らせる環境が整っていることが必要と考える。医療の充実化を図り、それを全国的にPRしてはどうか。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
9	保健・医療	市内には皮膚科、小児科が少ない。そういった意味で子育てに不安がある。	身近な医療環境の充実
		上宝の人から健診のために移動が大変という話を聞いた。飛騨市では診療所の先生が健診を行っており、診療所の先生でも健診はできると思われることから、忙しいとは思いますが、負担軽減のため診療所で健診してもらえると良い。	
		富山市では夜間であっても専門科の先生が診ていただける体制が整っている。医療の充実に住みたいまちに繋がってくると思うため、医療体制の充実を図ってもらいたい。	
		健診について、高校卒業後の青年期に健診の機会があると良い。そういった健診年代の穴を埋めること、受診されない方への促進が必要である。	
		往診について、市民からするとかかりつけ医は大切だが、対応が困難である。搬送するシステム構築を図り、往診でなくかかりつけ医で対応できるようにして欲しい。	
		高齢者など誰もが安心していつまでも暮らしていけるように地域医療の充実について検討してほしい。	
		医師の確保や医療設備の充実を図り、市内でも高度な医療が受けられる体制を整えてほしい。	医療人材の確保
		人口減少や人材不足による医療や介護のサービス低下を危惧している。	
		歯科医師について高齢化がすすみ、将来足りなくなると危惧している。医療育成には支援があるが、歯科医師にはない。歯科衛生士や技工士も少ない。	
		歯科だけでなく医師の高齢化を実感している。開業医への支援などにより、若い医師の定着を図って欲しい。	
		市職員に常勤の歯科衛生士がいない。専門職が必要であり、対応してもらいたい。	
		メディカルハイスchoolに歯科医師や歯科衛生士の話がなかった。若い世代に関心を持ってもらいたいため、拡充してもらいたい。	
		産後ケアを受けたいが高額で受けることを諦めた。他市では健診の一環として支援されているところもある。また、産後ケアの必要性を知らない人もいるため、産前から学べる産後ケア講座がある良い。	出産前後の支援
		子ども食堂の食材確保等の課題を一括して担うことができる大手企業を誘致できれば良い。	
		退院直後から産後ケアを受けられるようにして欲しい。すぐに訪問した方が良いと思われるケースもあるが、退院後すぐに書類提出などが難しいこともあり、タイムロスが発生してしまう。	
		2週間健診前にケアした方が良いと思われるケースがある。	
		退院後すぐに授乳の確立はできないため、退院に不安を感じられる母親が多く、エジンバラにならないように退院後すぐに産後ケアを受けられる体制にして欲しい。	
		高山市の中でも支所地域では、市街地に出てくるにも妊娠期などは運転も難しいため、助産師が向ういて訪問できるようにすると良い。	
		助産師相談の月2回の回数を増やして欲しい。増やしても対応は可能である。	
		助産師相談を予約制から好きな時間に来られるようにしてもらい有難い。毎回利用者はあるものの、相談が終わるとすぐ帰ってしまうので、母親同士の交流の機会がない。	
		双子の出産事例があったが、双子は移動するにも大変なため、交通手段(タクシー等)への助成や2人分の育児費用に不安を感じられているケースがあるため、支援を検討してもらいたい。	
		産後ケアについて周知されていないと感じる。他の利用者から聞いて制度を知ったなどの声を聞くため、当たり前利用できるということを周知してほしい。	
		相談というと相談のみで終わってしまうため、できれば飛騨市のように相談という名称ではなく、交流の場になると良い。	
		支所ごとに交流の場があると良い。元保育士など遊ばせられる人(コーディネーター)がいると行きやすくなると思う。	
		母親同士の交流も大切だが、多世代による交流の場があっても良いと思う。子育てを経験した年輩者に相談したり、話を聞くのは良いことだと思うし、高齢者の生きがいにもつながると思う。	
		出産祝い金は現金が喜ばれることはあると思うが、市内経済に使えるようなクーポンや授乳券・産後ケアチケットの方が良いと思う。	
		産後ケアを全員1回は受けられるようにしてはどうか。1回受けていただくだけで信頼関係が生まれ、今後のケアに繋がる。	
		自己負担を払えない方や相談等に来られない方をどのようにしてケアしていくかが重要だと思う。	
		妊娠中や産後困ったときにタイムリーに手を挙げられるシステムの構築を図って欲しい。	
		不安や悩みを抱え、当事業所の活動に参加されいていた方で、自殺した事例が2件あった。自殺予防対策として居場所づくりが必要と感じている。もっと相談先が充実すると良い。	心のケア
		精神疾患がある人で福祉サービスを知らないなどで、福祉制度を利用しないまま相談先などを知らずに孤立感を抱えながら自殺する人もいる。	
		市民に口腔衛生の啓蒙活動をしっかりとやっていく必要がある。口腔の重要性を認識するため条例を定めている自治体もある。市と連携して策定に向かいたい。	情報発信・啓発活動
		口腔衛生を保つためには予防が大切と考えており、コロナ以降中止となっている健康まつりを復活させて欲しい。	
		健康まつりの開催が難しいのであれば、歯科だけのフェスティバルでも開催できないか。	
		歯周ポケットが4mm未満の人は医療費が低いというデータがある。歯を大切にすることの取組みや啓発について検討してもらいたい。	
		このような意見交換の場は大切だと感じていることから、今後も継続して行えるよう前向きに検討してもらいたい。	
		火葬場建設の状況はどのようになっているか。	火葬場整備
		火葬場の建設計画の現在の状況を教えてほしい。	
		火葬場を現在の場所での建設方針の英断を下したことは評価する。一方でその周辺の山は荒れてしまっている。北山から東山にかけては景色も良く、市民がウォーキングするには良い場所であり、健康増進の面からも取組みをすすめてもらいたい。	
10	地域福祉	民生委員をしているが、高齢者から民生委員はよく代わると言われた。高齢者にとっては民生委員が代わることは不安に感じられるようである。最低でも3期は続けて欲しいと言われている一方で、原則75歳定年があり、3期継続しようとするとうと定年を超えることにもどかしさを感じている。何かしらの対策を検討してもらいたい。	担い手不足への対応
		低所得の高齢者や買物難民が今後さらに増えてくると思う。行政からの手厚い支援をお願いしたい。	自立した生活の実現
		見量町の市営住宅は、高齢者や自立できない方ばかり入居される。救急車も頻繁に来る。自分で生活できる方も入れて欲しい。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
10	地域福祉	少子高齢化はどうにもならないので、若い人に負担を掛けない、元気なシニアが活躍できる市になってほしい。困った人を助ける制度があると良い。	自立した生活の実現
		町内会活動として要支援者に関する講演会を開催する等で取り組んでいるが、市から要支援者が436人ということと言われた。町内会独自で要介護の方など支援が必要な方のデータベース化をすすめているが、130人前後の状況である。この差は何なのか。町内会で把握した方ですすめたい。	助け合う社会の実現
		スマホを持っていない高齢者・障がい者の世帯など情報難民の方への災害時等での支援が必要であるが、そういった世帯を把握することが難しい。	
		地域内で会話する文化、助け合う文化が醸成できれば、誰もが住みやすい地域になると思う。	
11	高齢者福祉	医療や介護など高齢者を支える人を増やすことに取り組んでもらいたい。	人材の確保
		高齢者の増加について、国の政策もあるが老人福祉従事者の給与ベースが低く、当初は使命感や自己満足感があつたが、最近では労働環境により現場のモチベーションが下がってきているので、人材の確保が大切であると思う。	行政・地域・住民・家族などが連携した地域づくり
		高齢者に対する見守りについて、民生委員だけでは無理な状況であり、同年代の方にもまでお願いしている状況である。そのなかで行政の支援がわからない。どの部署にお願いしたらよいか、取組みに対する支援の申請方法など簡素化してわかりやすくしてもらいたい。	
		町内でも高齢化がすすみ、町内会主導で見守り隊を始めた。今は何かあつたら電話をください、ということにしているが、緊急事態に対応できないことから、ボタンなどを押すだけで通報されるようなものを配付してもらいたい。個人申請だと申請しづらい人などがおり、方策を検討してもらいたい。	
		年齢を重ね、老後をどうするか不安に感じている。高根の「のくとい館」のようなシェアハウスがあると良い。コスト等の問題はあと思うが、地域に一つそのような施設が欲しいと思っている。自分の地域は自分たちで守るということをしていかないといけない。	
		温泉保養施設等利用費助成について、温泉施設を利用できない方を考慮して、温泉利用に限らず、灯油やタクシーの利用時などにも使用できるクーポン券として配付してはどうか。	
		高齢化に伴い、冬の除雪対策に多くの住民が不安に感じている。	
		地域によっては積雪量や除雪の方法が違うため、雪下ろし等助成事業の上限額の見直しを地域ごとに見直してほしい。	
		高齢化が今後さらに進み、高齢者に対する福祉関係の予算が増大すると思われるが、それを負担するのは若い世代である。逆に高齢者の医療費等に対する自己負担を増やし、それによって浮いた市の負担分を子育て支援に回す仕組みがあると良い。	
		災害発生時の土砂除去等に人手や機械の確保が必要となった経験がある。人手の確保に向け、在宅の元気な高齢者を活用できないか。平時から高齢者団体への意識啓発や補助などで連携し、災害への意識醸成を図ってもらいたい。	
		子どもにとって、外で走り回って活動することが健康面にも良いし、いじめ防止に繋がると思い、紙飛行機を活用した取組みを行っている。飛騨市や下呂市、高山市も参加していたが、高山市が抜けることになったことが理解できない。障がい児も喜んでおり、普通教室に戻ることができた事例も学校から報告を受けた。高齢者と子どもが接する場は重要と考える。	
		老若男女が集える場所(施設)がない。Aコープが撤退した場所を日中から夜間まで集える場所として整備できないか。	
		Aコープの撤退の報道があり、今後全市的に買い物難民の増加が予想される。対策について次期計画に載せるべきと考える。	買い物・移動への支援
		買い物難民は生活の質に大きな影響がある。特に高根地域は集落が点在しているため、対応が難しく、買い物に対する支援を検討してもらいたい。	
		大八まち協と連携して移動販売車が週2日ほど来てもらっている状況であるが、今後、高齢化がすすむにつれ、移動販売に対する需要は高まると思う。	
		地区内に生鮮食料品を扱うスーパーがなく、そのために高齢となっても免許返納を渋る傾向にある。今後も住みやすい地区であるためには地区内にスーパーが欲しい。	
		高根地域は商店が1店舗しかなく、買い物弱者が多いため、市で移動販売車の運行を検討してほしい。	
		免許を自主返納した高齢者に対する移動手段の支援が必要と考える。	
		買い物支援について、支所と高山地域の交通ネットワークの向上を図るため、のらマイカーやまちなみバスの利便性向上を図ってほしい。江名子地区で始まるタクシー利用による取組みも注目してもらいたい。	
		高齢化し、免許返納すると買い物等の足がなくなる。どういう方法が良いのかを今から考える必要がある。燃料が高騰し移動販売車の維持が難しくなるなど、悪循環が起きている地域もあり、それをとめるのが市の役割だと思う。	介護施設整備
		身近な問題としてAコープの撤退がある。高齢者世帯や独居の増加が見込まれ、食の供給の拠点がなくなる。移動販売車でも赤字が予想される。赤字補填して継続できるように政策を早急に行ってほしい。	
		高齢化率が高くなる中、それを見据えた医療・福祉施設の整備計画はあるのか？ある場合は、老後の不安を解消するため、そういった展望を示し、情報配信する必要がある。	
12	障がい者福祉	障がい者の働ける場所が地域にもっとあると良い。	労働・社会生活への支援
		障がい者の方や支援事業所の活動しやすい体制を整備するにあたり、行政は現状や現場を把握することが大切と感じている。	
		事故や病気で耳が聞こえなくなった中途失聴者や難聴者がもっと社会参加できるように日頃困っていること等の現状を知ってもらいたい。意見交換会に申し込んだ。要約筆記制度があることをあまり知られていない。要約筆記者によるサポートがあれば講演会などにも参加できるため、聴覚障がい者が疎外感を感じる必要がなくなる。	
		聴覚障がい者において聴力を失った時期や残存聴力に応じて、手話が有効な方と要約筆記が有効な方がいる。手話によるサポートは知られていても要約筆記によるサポートはあまり知られていない。聴覚障がい者本人も知らない状況である。	
		今年の広報に聴覚障がい支援に関する記事があつたが、手話に関する情報がメインで要約筆記についてあまり記載がなかった。要約筆記についてもっと周知してほしい。	
		高齢化もありサークルの人数が徐々に減ってきている。また、ここ近年市からの要約筆記の派遣依頼も0件である。要約筆記が必要な人はたくさんいると思う。要約筆記制度をもっとPRしてほしい。	
		要約筆記者の資格証の更新や新規発行が近年ないが、資格証の発行状況について確認してほしい。	
		障がい者やその家族がもっと外出がしやすくなるようにユニバーサルシート付のトイレをもっと設置してほしい。また、ユニバーサルデザインに配慮された利用しやすい飲食店等の情報がほしい。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
12	障がい者福祉	車イス用駐車場については車を駐車するスペースは確保されているが、車イスを下すスペースがないところがある(車両後部からの車イス乗降)。	安心して暮らせるまち
		事業所の自主的な活動の中で心配、不安を抱える家族を把握し、関係機関や福祉サービスにつなげており、重要な活動であると思っている。このような活動を継続的に実施したいため、活動に対する補助金を検討してほしい。	
		地域生活活動拠点に向けた整備について具体的な方向性を示してほしい。	
		高岡市に不登校などで行き場のない子どもやひきこもり・犯罪歴がある大人など孤立している人の受け入れ先がある。そこへは誰もが自由に行くことができ、小さな相談も乗ってくれている。そこに通っている人同士も楽しく会話をしており、非常に良い空間となっているので参考としたらどうか。	
		障がい者やその家族がパニックになるなど緊急時の受け入れ先、体制について事業所が時間外で対応できない場合は警察しか連絡する先がない。そういった時間帯で安心して預けられる受け入れ先がほしい。下呂市は障がい者入所施設が24時間受け入れできる施設として担っている。緊急時の相談・連絡先は下呂市の福祉課が担当している。また、下呂市では災害時の要支援者台帳をもとに支援者がいない世帯をピックアップして緊急時に支援が必要な世帯をある程度把握している。	障がい者を支える人材の確保
		障がいサービスを利用していない方など、相談事業所など関係機関とつながっていない人の緊急時の受け入れ体制についても検討してほしい。	
		障がい者に対しては障がいという括りでその人だけを支援をするのではなく、その家族や周りの人も含めて支援するように取り組み、障がい者を含め周りの人が安心できる環境になると良い。	
		緊急時の時間外での対応はなんとか人員を配置して無償で対応しているのが現状である。緊急時の受け入れ体制づくりや、事業所の緊急時対応に対する支援を検討してほしい。また、行政の中に市内の関係機関とつながるコーディネーターの配置も検討してほしい。	
		福祉事業所は無償でやっている活動が多くあるため、行政と事業所がもっとつながり、行政からの支援を検討してほしい。	情報の共有
		市の自立支援協議会に参画している事業所は組織がある程度大きい事業所だけであるが、組織が大きい事業所だと事業所内でも情報が共有されないこともある。事業所内で情報共有されていないと、地域内でも情報が広がらないと感じている。下呂市の同協議会では小さな事業所も参画しているため、高山市と比べると情報が共有されていると感じている。	
		聴覚障がい者に関する支援について、市ホームページに掲載はあるものの、問い合わせ先が電話番号しかなく、また詳しい手続きの方法も掲載されていない。下呂市は電話以外にFAXや郵送先など連絡先や、また飛騨市においては申請書等の添付がある等、掲載されている情報量に差を感じた。	
		障がい手帳を取得した際に、県発行の「障がい者の手引き」を渡されるが、障がいに関する様々な内容が掲載されているため、ほしい情報が探しにくい。それぞれの障がいに応じて必要となる情報が簡単に取得できるような仕組みや方法があると良い。説明の仕方を工夫することで改善される点もあると思うため、検討してほしい。	
13	児童福祉	人口が増えないことにはどうしようもない。出生率を引き上げるために手厚い支援が必要である。	少子化対策
		少子化対策として未満児保育への経済的負担の軽減などの支援を検討してほしい。	
		市では少子化対策に取り組んでいるが、家庭への支援ばかりで、子どもを増やす策を検討してもらいたい。周りに子どもの友達がいると子どもは嬉しいと感じ、その子どもが喜ぶ顔を見るのが、親は嬉しいと思うため、子どもを増やす取り組みに注力してほしい。	
		不登校児が増えているが、早期発見が重要と感じている。そのためには地域内で子どもに寄り添う方を増やすことが必要と考える。	必要な支援が届く地域社会の構築
		学校に行けない子どもの居場所が少ない。気軽にに行ける場所があると良い。また、高齢者が面倒を見てくれるような仕組みがあれば良いかと思う。	
		子育てはしやすいまちかと思う。学校以外でも保護者同士が繋がっている。	
		子ども食堂についてあまり周知されていないため、健診時での紹介や広報等で特集を組んでほしい。また、子ども食堂同士のネットワークもないため、市が主導して情報交換の場を提供することはできないか。	
		子ども食堂においては食材調達に課題である。農家から余剰分の野菜を提供してもらっている団体もあるが、さらに調達しやすくなるようなネットワークの構築が必要。必要な食材を届ける宅配の仕組みや各支所等公共施設に食材をストックする仕組みなどを検討してみはどうか。	
		子どもの権利を保障するための子ども条例を制定してほしい。	
		病児保育の定員数を増やしてほしい。	
		保育士の給与を都会ベースに上げると保育園の経営が成り立たなくなる。	
		子どもの発達障がいが増えている。乳幼児期の育て方の変化が影響していると考えられるため、対策を行って欲しい。	
		結婚を機に高山市に転入してきた方を対象としたママ友づくりのサポート支援に取り組んでほしい。	
		子育て支援に関するイベントの開催する場所が少ないため、空き家を活用してほしい。	
		町内会に未加入の家庭の子どもが町内の子ども会のイベントや行事に来てしまうと、断れず対応に困ってしまう。市でも子ども会活動へのバックアップをお願いしたい。	
		放課後等デイサービスなども充実していると思うが、利用条件が細かいところがある。気軽に通える場所があると良い。利用については柔軟な対応を望む。	子育て支援の充実
		生活環境、子育て環境のことを考えると市外に暮らす子どもに帰って来いとは言いつらい。子育て世代に対して魅力ある施策を検討してほしい。	
		保護者を対象としたアンケートが届いたが、設問数が多く、また聞く意図がわからない設問があった。アンケート内容については精査してほしい。	
		まちを活性化させるためには、子育てに手厚くすること。移住支援は止めて、全て子育てに振り替える。明石市、流山市を参考にしたい。	
		子育て関連の手当で、所得制限でもらえない人は市が補填する。そうすれば子育て世代の高所得世帯が移住してくる。	
		高山は子育てしやすいという話を聞いた。もっとそのことを活かして移住者を呼び込んでほしい。	
		保育園や塾など保護者の代行等として送迎するための子育てタクシーの運行について、市内タクシー事業者と連携して積極的に取り組むことができないか。	
		観光地であるため、休日出勤の職場が多いが、休日に子どもを預けられる場所が少ない。	
		子育て、介護であり時間に余裕がない母親に対する就労支援サポートが必要かと思う。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
13	児童福祉	母親の産後についてもっと理解を得られるよう父親を対象とした教室を開催してほしい。 出産祝金支給事業について、現金支給だけではなく、さるぼぼコインや市内事業者対象のクーポンを発行するなど市内でお金がまわる仕組みを検討してみはどうか。 気軽に子どもを預けることができる保育サービスがあると良い。 仕事をしていると子どもを預ける場所がない。歯科衛生士が復職できない理由もそこにあるのではと思っている。 市内の子育て親子はガソリンや時間を使って県外へ遊びに行くが、原山公園にできる遊具を積極的にPRして、全国から子育て親子に遊びにに来てもらいたいと心から思う。 近年の夏の暑さは異常。小学生の夏休みの居場所として、屋内型の遊び場があると良い。雨の日や冬場の居場所としてもあると良い。 乳幼児向けの居場所は比較的整備されていると感じるが、小学生の集える場所が少ないように感じる。 子育てに関する情報が非常に多くあり、自分に必要な情報を取得することが難しいため、結婚、妊娠、出産、子育ての各段階に対する相談窓口を周知してほしい。子育て便利帳を発行してもらっているが、情報が多すぎてわかりにくいところもある。 子育て支援に関するサービスについて、その人にあったサービスを受けられるようコーディネートしてくれる人や相談窓口がほしい。	子育て支援の充実 子どもの遊び場の確保 効果的な情報発信
14	学校教育	少子化により、岩滝小のこの先が心配である。荘川で義務教育学校が始まるが、今後このようなケースが増えることが考えられる。総合計画でしっかりと方向性を示してほしい。 学区について、大変な話だとは思いますが、学校によってバランスが崩れてきているため、見直しについて検討してもらいたい。 朝日保育園から中学校まで、保小中一貫校を目指して欲しい。 清見地域では、小中学校の統合(義務教育学校の設立)をすすめていきたい。市としても検討していただきたい。 PTAは任意団体であり、入学時に全員から申込書を書いて出してもらい、現在のような半強制加入を改めるよう、教育委員会が明示する。現状、何かでPTAが訴えられると、善意で引き受けてくれた会長が全責任を負うことになる。これから引き受けてくれる人を守るために、法に沿ったPTAの運営にしていく。PTAから学校への寄付は違法なので、必要な物はきちんと学校が購入する。 学校用品を減らす。さんすうセットは学校の備品にする。今、不要な人に寄付してもらい、足りなくなれば必要なものだけ買い足す。彫刻刀、そろばんなども備品にする。家庭の負担も減り、ゴミも減り、忘れ物も減る。学校指定の体操服は白い半袖Tと紺色の短パンにして、その他は自由にしてはどうか。指定の体操服は高く、卒業すると他では使えず、知り合いがいってもサイズが合わないと譲れない。市販のジャージなら、卒業後もジャージとして使える。制服は、子どもたちが毎日洋服を考えなくて済むのでありがたいというので、あっても良いと思う。 学区制度、校区の振り分けについて、生徒が多い、少ない学校が存在し、生徒の振り分けのバランスが悪い。統廃合を考えていく必要がある。荘川地域、白川村のように小中一貫教育をすすめていく必要があるのかもしれない。 小学校、特に西小については3つの中学校に別れ、友達となじみず不登校になってしまう生徒もいると聞く。せめて同じ中学校に進学できるように学校区の見直しができないか。 朝日地域の小学校と中学校の合併についてはどこまで話がすすんでいるのか。 少子化に伴い学校が合併されているが、住民は地域に学校があることを望んでいる。 朝日・高根から提言したように、義務教育学校の設置を早急にしてもらいたい。できれば保育園も一体となった施設にして欲しい。時間がかなり過ぎると児童・生徒がいなくなるため、早急に対応してもらいたい。 他地域から義務教育学校へ通学できるよう、学区の見直しを行い、市内全地域から希望すれば通学できるようにして欲しい。 飛騨市にできる大学の開校までのスケジュールを教えてください。 近年、従来とは異なる学びを求め、地方に教育目的で移住する家庭が出てきている。個性の尊重を重視するなど、他とは違う教育をすすめる学校を支所地域で展開してはどうか。 学校教育において地元の歴史や地域の特徴を学んでいないのではないかと。地域のお宝マップの作成や地元の人と触れ合う機会を創出し、地域への愛着を醸成することで、将来帰ってくる若者が増えると思う。 岩滝小学校の統廃合を見据え、東小学校側から岩滝地区をフィールドに学習する授業を提案してほしい。 給食の安全性の向上、オーガニック給食を導入してはどうか。 雪国であり、近くにもスキー場があるが、スキーをする子どもが減っている。学校にスキー指導が優れた先生を配属させるなど、学校教育にスキーをもっと取り入れてほしい。 義務教育学校では、例えば、保育園から英会話を学ぶ、プログラミングを学べるなど、特化した教育を検討してもらいたい。他地域からも通いたくなるような学校にしてもらいたい。 高校生に対する通学費や下宿費等の助成を、市内の高校に通学する生徒に対しては今以上の助成をお願いしたい。 廃校となった場合の岩滝小学校の校舎について、不登校児が通えるような学校として活用できないか。 不登校の子どもを抱える家族が学校にも相談できず、孤立感を抱えていると思う。 給食について、アレルギーなど少数の子どもにどう対応するかという視点ではなく、少数の子どもが食べられるものを基本に、献立を考えていただきたい。 子どもの通学に関して、熊が心配で、徒歩通学でもバスが出せないかを要望したところ、バスを出してもらえようになった。風通しが良くなったと感じた。また、PTAのリサイクル活動に関しても、単に大人の活動になっており、子どもがいなく、検討を促したところ、来年なくなることとなり、一度立ち止まって考える雰囲気になってきたと感じている。時代に沿って変えるところは変えることが重要である。 地域と学校の連携をもっとすすめられたらと思う。先生の負担を軽減するためにも、防災、DX、地域の課題解決等、地域の人たちが総合学習、授業にも関わっていくことができないものかと考える。 丹生川地域の魅力をもっと子どもに伝えていく必要がある。地域への愛着を醸成することで、将来帰ってくる若者が増えると思う。 現在計画されている義務教育学校の給食は自校式による提供と伺った。食材の仕入れ先について、地元商店を継続する考えから荘川地域内の店舗から優先して調達することはできないか。 人口減少を食い止めるために、子どもたちに地域の良さ、Uターンについて学校教育の中でしっかりと伝えて欲しい。 交流人口を増やすため山村留学の実施について検討してほしい。これをきっかけにこの地域に愛着が湧き将来的に移住する可能性もあると考えられる。 学校教育現場は人材不足が続いている。	学校運営の継続 特色のある学校教育 困難を抱える子どもや家庭への支援 地域との連携・郷土愛を高める学校教育 教育人材の確保

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
15	文化芸術	文化会館の再整備については、有名な演奏者、コンサートが誘致できるほどの立派なものを整備したらどうか。ビッグアリーナや中山野球場等はプロチームが試合できない施設環境となっている。施設整備においては専門家を設計段階から参画させ中途半端な施設にならないよう整備してほしい。	文化芸術活動施設整備
		第八次総合計画策定のときに文化会館の建て直しの話があり喜んだ覚えがある。ぜひ、誰もが憧れる魅力ある施設になるよう計画してほしい。	
		飛騨市には常設の美術館があるが、高山にはない。市出身の芸術家もおり、いつでも美術に触れられる機会として美術館の建設を望む。文化会館の建て替えて合わせて検討してもらいたい。	
		文化施設の使用料が高すぎる。思い切って市民は無料にするなど、特に若い人が使えるような施設のあり方を検討してもらいたい。	
		各地域にある踊りなど伝統芸能を後世に残すため、行政が主導となり伝統芸能の保存事業をすすめてほしい。	伝統芸能・文化の伝承
		町内単位等で実施している地域の祭りやイベントについて、近隣区域等で合同開催し、規模が大きな行事として開催すれば話題性も高まり集客力も増えると思う。	
		版画など高山には受け継がれてきた歴史ある文化がある。そういったものの掘り起こしをして、活かして欲しい。それが文化の継承にもつながると考える。	文化芸術に対する啓発
		まちの体験交流館で行われたライブが周辺からの苦情があったと聞いた。文化を許容できるまちであって欲しい。駅にストリートピアノを設置するなど、気軽に文化に触れられるまちであること、市民がそれを受け入れる環境づくりに期待する。	
16	スポーツ	妻太高校の軽音楽部には部員が100人ほどいるとのこと。県内でも珍しい。そういった若い人が興味・関心があることの情報を吸い上げて発信して欲しい。	指導者の育成
		競技スポーツでは、中学までは高山にいますが、指導者がいない等の理由で都市部に出ていく。また運動は健康で長生きに繋がります市民にとっても有益である。施設整備にも力を入れて、高山で楽しめる方策と指導者対策に取り組んでほしい。	
		スポーツ等で優れた指導者を招いて子どもたちに指導をしてもらい、高山からも世界的な選手を育ててもらいたい。	
		スポーツ普及や今後の部活動の地域移行については、今後、質の高いスポーツを子ども達に教えていくため、指導者を育てていく支援体制の構築が必要である。	
		モンデウスでは10月にイベントがあり賑わった。引き続き駐車場を利用したイベントの実施を望む。また周辺にスポーツ施設を建設して欲しい。	スポーツ施設整備
		モンデウスの整備をすすめてもらいたい。例えば林道を舗装することによって位山の頂上まで楽に行くことができ、登山者の誘客を図ることができる。資本投下しないと人は集まらない。整備について惜しむことなく投下してもらいたい。	
		モンデウスパークスキー場の向かいに総合運動公園や野球場を整備することができないか。	高地トレーニングエリアの充実
		高山スキー場の高速リフトの復旧工事は行わないのか。スキー客の利用減少により、ますます岩滝地区に人が来なくなる。	
17	交流	高地トレーニングエリアの充実 ・日和田ハイランド陸上競技場のタータンの修繕 ・池之原クロカンコース内のトイレ設置 ・飛騨日和田体育館の屋根修繕 ・ランニングコース(国道361号、県道463号線、市道留之原開拓線)の雑木の伐採と歩道の拡幅 ・チャオ御嶽スノーリゾートのセンターハウスを高トレの拠点に(センターハウスを食堂やトレーニング施設に、従業員寮を宿泊施設に)	地域との連携
		地域の体育行事について、強制しないと参加者は少ないし、参加する人も変わってきている。これからの体育行事の課題であると思う。	
		人口減少を少しでも緩和するために、移住・定住の取組みをこれまで以上に力を入れてほしい。	移住・定住・関係人口の創出
		人口の25%が移住者で人口の推移も横ばいの地方自治体もあるため、成功事例を参考に移住施策について取り組んでほしい。	
		移住者に対する充実した助成制度があると良い。	
		一歩踏み込んだ移住政策を望む。	
		人口減少を食い止めるためには、域外からの移住者を増やす取組みが大切である。	多様性の尊重
		田舎に移住する人の特集をテレビでよく見るが、実際、高山にも移住する人はいるのか。	
		移住者に対して何を目的に、また何に魅力を感じて移住したかなどの意見を聞いた方が良い。そういった意見を聞くことで各地域の魅力を再発見できると思う。	
		大原騒動のつながりで、荘川地域は東京都新島村と親交が続いている。友好都市として提携を結ぶことはできないか。	
18	歴史文化	地域起こし協力隊として荘川地域に移住し定住した。荘川地域の環境が好きで、市内の別地域に移住していたら定住しなかったと思う。高山市という全体の括りではなく、各地域それぞれの魅力を伝えながら移住者を募集した方が良い。	多様性の尊重
		地域起こし協力隊の現状について教えてほしい。(以前に高山に来た人がどうなったか)	
		地域協力隊員を設置して支所域の活性化に力を入れてほしい。また、市が各地域の資源を活用できる人材を見つけてコーディネートしてはどうか。	
		地域起こし協力隊は国の制度なのか。大手企業を辞めて地域起こし協力隊で活躍した後にその地域に定住した事例をいくつか聞いたことがある。	
		市は国際平和デーに合わせて9月21日を「高山市平和の日」とするなど平和に対して取り組んでいるが、外国の大使館関係者を招き、露天風呂に入りながら平和の実現に向けて話し合う場を開催してはどうかと提案する。	歴史・文化の発信
		人手不足は今後さらに深刻化することが見込まれるため、より多くの外国人労働者を確保できるよう外国人労働者に対する支援や市内の多文化共生に対する意識を深める等外国人が住みやすい地域にしてほしい。	
		奥飛騨温泉郷地域で働いている外国人について、同国出身の方が地域内にいないため、寂しいと感じている。市内の同国や近隣エリア出身の方を募った交流会を開催してほしい。	
		以前までは移住者に対して冷たく接するなど厳しい面があったが、今は親切に接しており、市民の移住者に対する意識が変わってきたと感じている。	
18	歴史文化	旧江戸街道や田中大秀などは、市でも取り上げPRしてもらいたい。	歴史・文化の発信
		荘川地域には化石、砂金、巨樹・巨木などのたくさんの地域資源があり、このような資源を活用して地域の活性化を図ってほしい。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
18	歴史文化	荘川地域には砂金で有名な遺構がいくつかある。そのようなところを市が指定し、地域の魅力として発信してはどうか。 市内の各地域で受け継がれている伝統文化などについて、もっと強く情報発信することで、高山祭だけでない地域への観光誘客にもつながっていくとともに、地域活性化にも資するものと思う。 AIやGPSを活用して、町並みや屋台の説明が見れるように整備してはどうか。 相続がされておらず放置状態となっている個人所有の文化財や、手付かずで朽ちている文化財の保全に向けた取り組みを検討してほしい。 地域の知名度を高めるため、三島家を国の重要文化財として指定するようすすめてほしい。 現在行われている各地域の伝統行事を後世に残すような取り組みを市において実施してほしい。 祭礼に関して、経済的な支援はあるが人的な支援体制も必要と感じる。お金だけではない形での継続への支援を要望する。 屋台曳行には多くの人が集まるため、祭り行事の安全性の確保に配慮いただきたい。 伝統文化や文化財の維持・保存は引き続き大切にして取り組んでほしい。その上で新しい観光スタイルを創出していけると良い。 高山祭でさえも担い手不足と聞いており、将来負担が重くなるのではないかと危惧している。宗教か観光コンテンツかで難しい側面はあると思うが、行政としても支援が必要である。 伝承芸能について担い手が少なく、参加する人が少ない。保存・継承していくために行政の支援が必要である。	歴史・文化の発信 歴史的な建造物等の保全 祭礼行事の継続・担い手不足への対応
19	協働	毎月町内会を脱会したいという相談がある。強制する訳にもいかずに会員の減少に困っている。リベラルな思想が自分勝手に捉えられてしまっていると感じる。コミュニティやつながりは必要であり、その基盤となる町内会は重要と考えている。判例などもあり行政として強制することは難しいと思うが、町内会加入は高山の規律であるなど、ギリギリのところで市も取り組んでもらいたい。 町内会を出たいという人が多い。転入者に対する加入促進は行っていただいているが、役員としては市のガイドラインがないと加入促進や脱会の引き留めなどがしにくい整備してもらいたい。 町内やまち協の役は若い人でもできるような、誰でもできるようなシステムになると良い。 北地区は他の地区と比べると人口は多いが、町内会によっては高齢者が多い世帯があるため、町内活動が十分でないところがある。一方で若い世帯については、町内会加入率が低く、課題と感じている。 町内会に加入することで町内会費の負担や出役などデメリットしか感じない若者が多くいる。現状のままでは町内会加入率の減少は止まらないと思う。加入者に対して恩恵を与えるなど対策を検討するべきと考える。 地域の祭りなどの地域行事には、新たな団地等の住民が参加できないなど、地域内で壁があると思うときがある。 計画において町内会の役割も掲載してほしい。掲載されていることで各町内会が同じ目線となって取り組むことができると思う。 将来的には町内会の合併も考えられるため、近隣の町内会とは協力したいが、それぞれ神社が違うなど、うまく連携した取り組みができないのが現状である。 人口減少を食い止めることは不可能である。その中で、町内会に加入しないという住民があり、町内会をどのように維持するのか。人口が減ることを前提とした計画にすべきである。 今後地域内で助け合っていくには、昔のような顔の見える関係づくりをすすめていく必要がある。 町内会も高齢化がすすみ、帰属意識の低下がみられ、約3分の1が未加入となっている。まち協も役員のなり手が不足し、世代交代しようにも担い手がいけない状態である。行事も見直しをしていかないといけないと思うが、負担軽減を図る取り組みをすすめて欲しい。 地域行事、地域活動について持続可能な方法を模索する必要がある。 町内会長の役割にかなりの負担を感じている。また、回覧版が電子化になる予定だが、電子化に伴い、返って案内が届かない世帯が現れるのではないかと不安に思う。 各町内会の規模が年々小さくなり運営が難しく、町内会同士の合併や協力町内会としての共同運営など検討をすすめているが、全くすすまないのが現状である。地域で声を上げていたことから複数年にわたって検討を行い、案を提示しても誰も賛同しない。現状を変えることへの不安を取り除かない限り、先にすすむことはない。 町内会が適正規模となるよう、市として合併や指導などを含めた指針を示してほしい。 町内会の運営に関しては、まち協だけでは手に負えないため、市からも支援してほしい。 中心市街地内の町内会組織を整理し、行動して取り組める環境にする。 古い町並の周辺に住んでいるが、昼間人口が夜間人口と比べると倍ほど少ない状況であるため、町内会行事や祭り行事が実施しにくい状況である。 少子高齢化への対応として、町内会活動や町内担当役員の再検討する必要がある。 総合計画にある10年の間に世帯数はさらに少なくなる中で、「多様な主体の協働」とあっても、それが成り立たない可能性があると思う。 地域と市ができることはない。そもそも地域の繋がりが薄いのに、地域に頼むのは一部の真面目な人の負担だけが増え、不公平感が増して、頼める人が更に減るだけである。今は地域に頼ることはゼロにして、仕切り直す時ではないか。 人口が減少する中、役がすぐに回ってくる。市から依頼がある役や町内など地域の役について、人口に応じた役員数にするよう見直す必要があると思う。 最近の移住者は町内会への加入や地域行事にも参加しないが、町内管理のごみステーションの使用や、子どもが子ども会の行事に参加できないなど、住民間でトラブルが発生している。 町内会に加入しなくても生活に支障はなく、加入者との間での不公平感がある。 町内会活動が存続も難しいような地域があり、集約していかないと持続できないところも出てくるため、町内会のあり方・区画など検討してもらいたい。 町内会に未加入でも普通に生活でき、加入者は役員などの負担を強いられ、不公平感が増している。役員も30代～40代でも働きながら片手間に務まるくらいのシステムになるよう検討してもらいたい。 町内に入らない人が増え、役が頻繁に回ってくるなど、町内会加入のメリットがない。未加入の方が得ではないかと思えるくらいなので、町内会のあり方の検討をすすめて欲しい。 地域の役が多く、若者は負担に感じて他の地域に転居する者もいる。地域の役割をもっと簡素化すべきである。 大八まち協では、委員が残ってくれているおかげで事業が継続できている。他地域ではコロナの影響で活動が鈍ったと言われるが、コロナだからできることを考えて行っている。その時の情勢に沿った活動、例えば防災などは乳幼児期から小中学生まで、親や学校を巻き込んだ取り組みを行っている。	町内会活動等の継続 社会情勢・地域の実情に応じた柔軟な活動

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
19	協働	まち協を設置し、当初は新しい組織として半信半疑だったものが、毎月の広報発行などの努力によって、ようやく認められてきたと感じている。手伝いますという声が出てきて、以前はイベント開催のお願いに行っていたスーパーから、開催してくれないかと声がかかるようになった。 支所地域の住民も危機感を持って将来を考えて取り組む必要があると思う。若者、団体などやる気のある方が活動しやすい環境づくりをすすめてほしい。 まちづくりという言葉があふれており、よくわからなくなっていると感じる。まち協は、協働のまちづくりであるという認識のもと、会員の絆を深めることが地域や人の繋がりのためには大切と捉えている。 協働のまちづくりの基本指針を示されたが、指針に沿って改めて丹生川のまちづくり協議会で取り組む内容を見直す必要があるのではないか。 若者が感じている地域に定住した場合の課題を解消すべきである。町内会や消防団員の活動の軽減などを見直し、地域活動のあり方を考えていく必要がある。 今年度より子供会のブロック化(地区内で8ブロック)で運営を開始し、うまくいっている。町内会においても検討していく必要があり、市としても支援していただきたい。 住む人が少なく今まで通りの地域活動ができない。今の規模に見合った活動内容への方針転換が必要と感じる。 LGBT理解増進法が施行されたが性の多様性に向けた取組みは国の方針に左右されることなく、世間や市の現状に合ったもので取り組んでほしい。 廃校となった場合の岩滝小学校の校舎について、高齢者や子育て世代の交流拠点施設として活用することができないか。 まちづくり協議会から町内会へ負担を求めているところがあるため、地域内との繋がりを保持しつつ活動内容を見直す必要がある。 若い世代が町内会に加入しないことが課題である。町内会として加入者の負担軽減を考えていかなければならない。 空町地区は、少子高齢化が他の地区より顕著である。また産業や従業員、生活基盤も他の地区に頼る状況である。経営者も他地区に拠点を持つことが多いと思われる。このようなことから歴史的にも風土に恵まれたこの地区は落ち着いた地区であり、子どもや高齢者が安心して暮らすには適した地区であると思う。そのためには、子どもや高齢者が一堂に集うことができる場所をつくるのが大切であると考え。空き家を利用して、子どもや高齢者が交流できるカフェや教室などの交流の場をつくることによって、安心して暮らせる地区になるのではないかと考える。 子ども会はなくす。育成員が見つからず、毎年揉めている。市でも色々な子ども向けイベントが各所で開催されているので、なくして良いと思う。 小さい地域であると、どうしても「こうあるべきだ」という雰囲気があり、自分達の意見を言えない。いろいろな人がいて当たり前なので、お互いが尊重し合って個性あるまちづくりをしていきたいと思う。 地域の繋がりについて、隣は知らないということがないように距離感を大切にしたい、まち中の人がコミュニケーションをとり共有したいと考えている。地域の伝統は大事であるが、若者が風通しよく参画できる仕組みをつくり、テラコヤイチは小さい力であるが地域を変革したいと思う。 変えたいことややりたいことの意見は言った方がいいと思う。子どもが意見を言えないのは、大人が勝手に決めてしまいうらだたと思う。子どもでも大人でも誰でも意見を言える方がいいと思う。 「大人の役割」、「子どもの役割」というように役割を分けすぎていると思う。役割を分けすぎない方がいいと思う。 飛騨市古川町の高野地域は中心部から離れたところに位置するが空き家がない。地域で助け合って賑わいのあるところである。今後は公助ばかりに頼るのではなく、自助・共助の意識を持つことが必要になってくると思う。 町内に新しいホテルができ、従業員の社宅も作られる。町内会活動への積極的な参加・協力を行政からも働きかけして欲しい。 総合計画の見直しのポイントに地域が輝く計画とあるが、人口減少が特に著しい地域で明るい未来があるのかと不安に感じる。そのような地域には人口減少に伴いできなくなった地域活動や行事を支援する目的で特別な予算を計上して優遇するような考えを検討してほしい。 国内外の移住者の増加に伴い、文化やマナーが違う方々が地域行事に参加するなど地域を支えていけるのかを疑問に思う。 文化遺産や町内会活動を維持管理する人が高齢化や担い手不足により、できなくなっている。維持・発展のためにはお金と知恵が必要である。 若者不足で町内会等地域コミュニティでの担い手の確保が困難で、5年、10年先を考えると現在ある各地域の事業の継続は難しいと思う。町内会の役員や活動についてはほぼ無報酬でお願いしているが、担い手の確保のため、例えば、役員を務めた人や地域活動に参加した人に対して、ポイントを付与して、ポイントを介護サービス利用時等将来において活用できるポイント制度の仕組みを検討してみようか。 人口が減少し、草刈りなどの地域活動が思うようにできない。市民がやらなければならないこともあるが、きめ細かな対応をしてもらいたい。市、まち協、市民が連携して実施できると良い。 地域活動については人口減少に伴いどこまでの活動を若い世代に引き継いでいくのかを考えていく必要がある。 地域の住民が主体となった取組みをすすめていただければ、地域にとって大きな強い力になると思う。 特に支所地域では託児などの子育て支援関連の人材がいらない。それぞれの地域で課題解決できる人材の発掘・育成できる取組みがあるとありがたい。 地域住民のまち協活動に対する理解が十分でないと感じている。地域のコーディネーター的な人材の支援体制が欲しい。 一之宮地域は近年までは人口が微増していたが減少傾向になり、祭り等の地域行事の担い手の確保に課題を感じている。また、今後のモンデウススキー場の経営にも不安を感じている。 町内会活動に危機感を持っている。役員の担い手がいらない、回覧物や募金が多く負担となっている。そのことが加入率に影響しているのではないかと。 まちづくり協議会の支援金については、地域の規模によって金額が決まっていると思うが、少ない人口の地域では活性化を行おうとしても、支援金が少なく思い切った活動が出来ないと思われる。基準は必要であるが、やりたいことがあるときは、枠に捉われずもう少し柔軟に対応してほしいと思う。 協働のまちづくりの資料に記載がある「協働のパートナー」のパートナーは誰を指しているのか。 各地域の活動が弱くなったと感じているが、まちづくり協議会ができた影響もあるかと思う。地域をすべてまちづくり協議会に任せるとはなく、市からもしっかりとフォローして地域が活動しやすい環境を整えてほしい。 まち協支援金について、増やすことは可能なのか聞きたい。一之宮ではまち協で公園を整備したが、トイレ設置等の要望もある。支援金の増額について検討の余地はあるのかを知りたい。	社会情勢・地域の実情に応じた柔軟な活動 地域活動の担い手不足への対応 まちづくり協議会への支援のあり方

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
19	協働	多様な主体による協働のまちづくりについては、現状では十分なことではないと思う。市としても少し手立てを考えて欲しい。 地域のことは地域で盛り上げていくためにまちづくり協議会が発足されたかと思うが、人口減少によりまちづくり協議会、また町内会の役を担う人が少なくなってきた。同じ人で役を回しているため、新しいアイデアも浮かばない。交付される支援金も思うように活用できていないため、地域活性化につながるような活動ができていない。まちづくり協議会の仕組みは今後も継続されていく予定なのか。 まちづくり協議会が発足された当時は世帯数もそれなりにあり、活動もある程度できたが、現在は人口や世帯数が減少し、協議会の委員の人数を減らしたところである。岩滝小学校の統廃合が検討されており、地区としての活動も継続できるか心配であるため、引き続き行政からの支援を望む。 各まち協の活動の度合いや課題の規模に大きな差があるものの市からの支援金は一律である。公平性の観点からの支援金の額の算出等について、考え方や取扱いの見直しが必要と思う。 20ある地区・地域をそのまま維持し続けることは今後難しいと思う。町内会の維持についても同様である。このことについて議論を重ねていく時期だと思う。 まちづくり協議会の力は今後、ますます必要となり、重要になってくると思う。行政とまちづくり協議会が連携して、自動運転、無人スーパー、ドローン輸送等々、人手をどれだけでも削減する戦略を立てられたらと思う。 地域のつながりが希薄化したため、子育てに関する様々な課題が増えていると思う。まちづくり協議会が中心となって地域をつなげる活動をしてもらってはどうか。 まちづくり協議会立ち上げに関わったが、当初市の丸投げなど言われたこともあった。これまでの成果と課題を見えるようにして欲しい。 まち協のお金の使い方はそれぞれの組織で異なっており、行政としては、取組みの方向性を示してもらえればそれで良いと思っている。 まちづくり協議会の予算の1/3が人件費に充てられているため、協議会における活動が十分にできているのか疑問に思うため、今後のあり方について検討してほしい。 高山地域と支所地域での町内会活動のレベルが全然違う。支所地域は奉仕活動がメインであるため、活動について行政が支援して負担感格差を解消してほしい。 岩滝小学校の統廃合が検討されるなど、岩滝地区においては若い世代が著しく減少していく見込みである。少子高齢化を見据えた対策を今から考えていく必要がある。今後の活動の参考にしたいため、地域に学校がないところの取組み内容について情報提供してほしい。 青少年交流の家がSDGs関連で、大八地区と連携して取り組んでいるようであるが、岩滝地区とも交流してほしいため、市役所からも伝えてほしい。 住んでいる人が住みよくなることが一番であり、そのためにも自身の地域での課題を皆で共有できることが重要である。 活力あるまちづくりをすすめるには若くて活動力のある人が必要であるため、移住者を含め人口を増やす取組みが必要である。市には色々な魅力があるため、国内外へ発信してほしい。	まちづくり協議会への支援のあり方 情報の共有・発信
20	生涯学習	地域住民が活動できる屋内施設が少ない。 高齢者が魅力に感じる行事があると良いと思う。 余裕がないのか昔と比べると習い事をする大人が減ってきている。	誰もが活動できる環境の創出
21	土地利用	ホテルが乱立していると感じる。景観上も良くない。市で把握して規制をかけたりはできないのか。計画的な建設となるよう市で統制してほしい。 将来的には数軒となると予想される地区に、若い方が家を建てられている。市として、家や商業施設を建てる場所をデザインしておくなど、人口が増えることが想定されないなかでのまちづくりが必要になっていると思う。残された人が安心して暮らせるまちを考えると、若い方が家を建ててはいけな場所があると感じる。 市では500㎡以上の土地開発に対して届出が必要となっているが、近隣市においては1,000㎡以上となっている。柔軟な土地利用の妨げになっているのではないかとと思われる。せめて支所地域においては面積緩和をするべきと考える。 アンケートの中で急激な高齢者の増加への対応や少子化対策について重点的に取り組むべき課題として上位を位置している。高齢化になるにつれ、人の行動範囲は狭くなると思う。コンパクトシティに向け考えていく必要があるかと思う。また、行動範囲が狭くなることで耕作放棄地も増加していくと思うため、将来に向けた土地利用についても検討していく必要がある。 市内は農振除外に時間がかかる。土地探しで困っている人がいた。 高山市は土地の無償譲渡は受けていない。風致地区内の土地やイエローゾーン、レッドゾーンに指定されている土地は財産価値が低く将来にわたり放置されていく可能性が高いため、受け入れについて検討してほしい。	秩序ある土地利用への規制 効果的な土地利用の推進
22	住宅公園	空き家がたくさんある。他から見れば高山は観光客が多く元気なまちであるように見えることから、空き家をあつせんするシステムがあれば移住者も増え、活気につながるのではないかと。 空き家が多く、その利活用方法の所有者へのアドバイスや解体への助成制度の創設など対策がほしい。 大新町においては空き家が増えている。以前、市の空き家対策会議に参加したとき、観光面からの活用について提案があったが、北地区としては観光が中心なエリアでないため、観光以外の方法で何か対策がないかと思う。 空き家について、解体に対する助成制度を設けるなど、空き家対策への取組みを行ってほしい。 空き家について、家屋・土地の所有者に相続者の有無を明確にしてもらい、所有者がいない場合や相続する者がいない場合、市がもらい受け活用するなど対策をとって欲しい。 市が空き家を管理して町内会に貸すなど空き家の活用について検討してほしい。 上室・奥飛騨には民間アパートが無いため、空き家をシェアハウスにしたり活用の幅が広がると思う。 支所地域については特に空き家が多い結果となっている。家は住まないとすぐに劣化するため、空き家になったらすぐに改修・解体するなどスピーディーな対応を望む。 空き家対策と定住人口の増加に向けて、空き家に居住する人に対してリフォーム補助金を創設してはどうか。また、空き家の所有者に対しても将来的な財産の処分について意向を確認する調査も必要かと思う。 市街地が空洞化しないよう、空き家の活用などに関するパンフレットができたとは聞いているが、これらをもっと周知して欲しい。この地域では敷地が狭いなどの理由により新築するにあたって郊外へ転居してしまう。 空き家について、マッチングなどを含めて空き家情報の提供をまち協と一緒に取り組むことができれば、移住者の増加につながると思う。 所有者が不明な空き家の木の枝が道路路面にはみ出している。特に空き家は防犯上も問題があるため、伐採等ができる権限を持てると良い。	増加する空き家に対する対策と活用

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
22	住宅公園	移住者が空き家を購入しリフォームする仕事が増えているが、移住した方の話を聞くと空き家の選定に大変苦労したと聞いている。空き家情報を発信することで市に移住を考えている方への後押しになると思う。まちづくり協議会としても空き家情報を把握して市等に情報提供ができると考えるため、市や不動産事業者と連携して移住者増加に向けた取組みができればと考える。 空町地区に住みたいため、空き家を紹介して欲しいという依頼があるが、ちょうどよい物件が見つからないことが多く、個人の力では限界がある。市として空き家の活用を推進してもらいたい。 市が空き家の調査を行ってから、すでに8年近く経過しているが未だに取り壊しの代執行が行われていない。飛騨市は行っている。このままではますます特定空家が増え、代執行で市の負担も多くなることが考えられる。それならば、今のうちに空き家がスムーズに利用されるように家財の整理に対する補助を出してでも、移住の用に供することができるようになった方が同じ公金であれば、より活用できる方法を選択するべきではないか。私財だからと言って躊躇することなく柔軟に考えてみてはどうか。 空き家対策の取組みについて、声を掛けていただければ当組合も協力できることはあると思う。 空き家が増加する中、子育て世帯での移住を進めてほしい。空き家の利活用が上手く機能していないように感じる。 人口推計を見て、将来の空き家の増加が懸念される。対策をしっかり行って欲しい。 空き家の増加や、放置されている空き家が目立つ。空き家対策に力を入れて欲しい。 人口減少に伴い空き家が増加していると思われる。移住コーディネーターのような専門員を設置し空き家の活用を促進する施策を検討してはどうか。 空き家について、移住者等へ空き家を活用してもらうため、空き家情報を提供できる仕組みづくりに取り組んで欲しい。 15歳未満の若年層が多い地区だが、公共施設がない。公園などを整備してほしい。 子どもはもちろん、障がい者も楽しめるインクルーシブ遊具がある公園が江名子にあると良い。高齢者も集えるような場にしたい。 高山厚生病院の跡地を緑地公園とするなど賑わいのある公共施設の整備を望む。 公園を作って欲しいという要望は出すことができるのか知りたい。また公園整備の補助制度の創設をして欲しい。 花里地区は交通インフラに恵まれ、病院や商業施設もある。さらに若い人が魅力を感じ居住してもらえるよう和合橋周辺に親水公園の整備を望む。 ウォーキングを城山公園で行ったが、特にトイレ整備がすすんでいないと感じた。また本丸も殺風景であり、何かあると良いと感じた。 北山公園のトイレの水洗化を早急に行って欲しい。 室内で遊べる場所を整備してほしい。最近では猛暑が続いているため、外で遊ぶこともできない。遊びやすい場所を整備することで子育て世帯の交流にもつながる。 夏でも過ごしやすい日陰が多い公園を整備してほしい。 屋外の公園でも水辺や木陰があるだけでも涼しさが違う。市内の公園は、そういったものが少ないように感じる。 公園には、大きい子供向け、小さい子供向けの遊具やエリアを設定すると良い。 石浦町では公園4か所の管理を行っているが、草刈り等が負担となっており、今年度初めて草刈り業務をシルバーへ委託した。そのくらい活動できることが減ってきている。 子どもに対する現金給付は有難いが、休日に遊ぶ場所がなさすぎる。スカイパークや丹生川の公園は広いだけで何も遊具がない。市外に出なくても遊ばせることができる場所や屋内での遊び場の整備をお願いしたい。 子どもが歩いて行ける場所に公園がない。郊外の公園は計画されているが、全体面積ではなく、公園の所在により手薄な場所に設置を望む。 長寿会で宮川緑地公園の草刈りを行っている。グランドゴルフができるレベルの草刈りが必要なため実施しているものであるが、公園管理の一助となっていることから、燃料代や機械代の支援を行ってもらえないか。 宮川緑地公園にバスケットゴールを設置してもらいたい。また遊具が老朽化していることから更新を検討してもらいたい。 桜ヶ丘団地の町内会が機能なくなり、災害対応にまち協が苦慮している。市営住宅の空いた住居などを賃貸として貸し出すなどはできないのか。支援をお願いしたい。 見量町の市営住宅について建設から50年を経過し、建て替えを計画して欲しい。現在は同じ棟が並んでいるが、独居、夫婦世帯、家族など複数のタイプを用意し、希望に沿って入居できるようにしてもらいたい。 市営住宅が老朽化し、台風で屋根が飛ぶのではないかと不安の声がある。過去には台風で被害が発生した。高齢の方が多く、バリアフリー化もされていないため、日常生活に苦労している。 見量町の市営住宅について、取り壊しの方針が決まっていれば隠さず教えて欲しい。そうでなければ九次総で建て替えを検討してもらいたい。 市営住宅が老朽化し、利用がないことから、修繕を自費で負担する方には無償で貸し出す等により、利用の促進を図って欲しい。のくとい館のように高齢者の集合住宅での活用ができないか。 雇用があり働き手がいっても住居が確保できない状況である。大原地区の市営住宅の利用について、短期間の利用を認めるなど柔軟に対応してほしい。 このまま交流人口の増加を目指すのか、それとも定住人口の増加を目指すのか。定住人口の増加については、市が主導してすすめてほしい。例えば町屋の市営住宅については、国からの補助の関係もあると思うが、家賃を低くしたり、数年住めば住宅を譲渡するなど定住につながる施策を検討してほしい。 住まいの確保については一事業者だけで解決するのは困難である。老朽化した市営住宅に住む独居老人の新たな住まいとして行政として高齢者向けの住宅を建設してはどうか。そして老朽化した市営住宅は改修して若い世代に住んでもらってはどうか。民間アパートを活用して住まいに困っている方の住宅確保を目的として、アパートの改修費助成や入居者負担を軽減する「住宅セーフティネット制度」があるが、対象となるアパートの要件もあり制度の活用があまりすすんでいない。 奥飛騨温泉郷地域には賃貸物件が少ない。従業員のため単身用の部屋を探した際に市営住宅を見せてもらったが、長期で生活できるような住環境の設備が整っていなかった。人材を確保する上で移住したい方が住める住環境の整備をすすめてほしい。 町屋地区にある市営住宅について、長年居住した者には無償譲渡することはできないか。 市営住宅について空いているにもかかわらず入居希望者がいても修繕中などですぐに入居することができない。 仮に市営住宅を無償することができれば良いことだとは思いますが、数年住んで無償で譲渡される人と長年住んで退去した人とのバランスも考えて慎重に検討する必要があると思う。無償で譲渡されることが分かっているれば定住を考える人もいると思う。	増加する空き家に対する対策と活用 あらゆる世代が集える場の整備 市営住宅の維持・活用

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
22	住宅公園	市営住宅の指定管理者から入居者に対して修繕要望調査を実施するが、要望してもすぐに修繕されないことを聞いたことがある。	市営住宅の維持、活用
		合併前、市営住宅に入居後何年か住めば無償譲渡されるという約束事があったと聞くと実際はどうであったのか調べてほしい。	
		市営住宅の家賃について長く入居している人に対して減免するなど、支所地域の市営住宅に永住してもらえるような対策を検討してほしい。	
		市営住宅について、時代やニーズに即して柔軟に対応できる制度にしてもらいたい。国の補助等の関係で入居条件等が設定されることはわかるが、明らかに使われていない施設であり、地域活性化のために有効活用できるよう取り組んでもらいたい。	
		まちなかへ移住する補助金をやめてほしい。高山地域へ移住を促すことで支所地域の過疎化がすすんでしまう。	住宅支援への対応
		中心市街地には「まちなか定住促進事業補助金」があるが、支所地域は対象外である。市街地も支所地域も同じような状況であり、人口の減少は全市に及んでいる。税収の観点からすれば、市街地に定住した方が市としては都合が良いだろうが、土地も広く固定資産税も安い支所地域の方が人によっては魅力があり定住しやすいような気がする。どちらでも定住出来るように門戸を広げてはどうか。今の内に手を打たないと手遅れになるのではないかなと思う。	
		以前まちなかへの移住に対する補助金があったが、市内から市内へと人口を促すような補助金については見直してほしい。	
		最近の家は柱が見えない工法になっている。もっと木を活用した家づくりをすすめた方が良い。	
		伝統構法を活用した建築に対して補助金制度を創設してほしい。	
		若者の移住、定住促進のため、住みやすい宅地開発を検討してほしい。	
23	生活環境	ごみステーションのあり方について、町内会で管理しているところが多いと思うが、町内会未加入者もごみステーションを利用している。ごみステーションの設置について、市として何らかに対応を検討する必要があると考える。	ごみステーションへの対応
		市内の町内会で、町内会未加入世帯に対してごみステーションの維持管理費をもらったところ、町内会に対して抵抗なくごみを任せ、なおかつ町内会の役が当たらなくなる等で町内会から脱退する世帯が多くなってしまった事例がある。	
		ゴミシールをやめて、ゴミ袋を指定で有料にする。その費用でゴミ集積所の管理を市で行い、町内会の負担と会費を減らす。今は集積所は町内会で管理しているのに、町内会に加入しなくてもゴミは捨てられるので、不公平だと問題になっている。	
		町内会加入者と、未加入者の不公平感がある。ごみを出すのは、市に住む全員に権利があると思うが、ゴミステーションの管理を町内会に任せているので、不満が出ると思う。シール配布制度を廃止し、有料ゴミ袋にしてはどうか。そして、未加入者には、町内会協力金として町内会に支払う制度を作ってはどうか。単位町内会では、個人の把握が出来ないため、市で取り組んでほしい。	
		市外の人からは高山市は魅力あるまちと聞くと、住んでいると不便なことが多く魅力あるまちだとは思わない。	ごみ焼却施設及び埋立場への対応
		ごみ処理場について次の場所の準備をすすめないと、時間がかかる問題のため、間に合わなくなる。	
		エネルギー価格が高騰し、市民生活を圧迫している。自立できるまちを考えるとエネルギー（発電）を市内で生み出すことは重要である。マイクロ原子力発電などが世界でも事例があり、自立できるエネルギー対策について検討して欲しい。	エネルギー対応
		当団体は飼育困難等で放置された動物保護を目的に活動している団体。動物のケアはできるが、人に対するケアができない。ただし、動物のトラブルで困っている世帯や地域について行政につなぐことはできるため、引き続き連携、協力して問題解決に取り組んでいきたい。	
		高齢者等による多頭飼育や独居老人の死亡や入院・入所からなる飼育困難に伴うトラブル事例が多くある。ケースによっては行政、福祉事業者等との関係者会議で共有すれば大きなトラブルになる前に未然に防げる場合がある。情報共有方法など今後の対策について協力して検討していきたい。	飼育困難等による飼育動物の保護等
		世帯数が少ない狭い地域の場合は、ペットに関するトラブルがあっても近所間の関係性の悪化を恐れて、地域から訴えることもできず行政も把握できないケースもある。地域と密着した情報網が働かないと拾えないため、情報収集の方法を検討する必要がある。	
		市営住宅でのトラブルも多い。市営住宅はペット禁止であるが、市営住宅に入居する前から飼っている場合は、ペットを手放すことができず、隠れて飼うケースが想定され、そこからトラブルに繋がることが考えられる。適切な飼育を原則として市営住宅での飼育を認めてはどうかと考える。	
		動物を預かる避難場所やバックアップする支援体制が必要。例えば、ふるさと納税を活用して受入れ体制の整備やバックアップ支援を実施してはどうか。活用事例としては飛騨市ではシェルター（動物愛護センター）の運営を実施している。高山市で保護した動物も受け入れてもらっているが、キャパオーバーにより今後受入れは厳しい状況にある。	
		ペットに関するトラブルに繋がりがやすい高齢者・障がい者世帯、飼育放棄家庭に対する飼育対策として第三者がわかるようペット情報や家庭状況等に対してのチェックリストの整備が必要かと思う。チェックリストは郡上市が今後整備する予定でそのたたき台はある。対象はペットを飼育している全世帯。行政のほか、町内など地域と協力して実施できたらと考えている。	
		地域の住民らが餌をやるなど地域で飼育している野良猫に対して、野良猫がこれ以上増えないよう地域住民に避妊手術を推奨しているが、費用が発生するなどで手術実行までに至るケースが少ない。当団体で費用負担することもある。手術に対して全国的な助成金（どうぶつ基金チケットなど）があるが使用範囲が厳しく、使用できないことが多い。避妊手術に対する助成制度を検討してほしい。	
		災害時のペットとの同行避難について。避難所における受け入れ態勢の準備も必要だが、ペットを連れて避難する飼い主に対してもゲージ等の持参の徹底化等ペットを同行する際のルールについて、「人とペットの災害対策ガイドライン」等を参考に決め、周知することが必要。チラシ原稿などの提案は可能であるため、啓発に対して協力をお願いしたい。	
		身寄りのないペットの一時避難場所として空き家活用も視野に検討してみてもどうか。	
		高齢者世帯など心のよりどころとしてペットを飼うケースがあるが、高齢化に伴い飼育が困難となり、トラブルに繋がることがある。飼い主の幸せを考えて、手放すのではなく行政等の支援を受けながら最後まで飼育できる環境が整えばよいと思う。	
		動物に対する告知をSNSで発信することで、動物も大切にするまちとして広くアピールできると思う。	
		将来の人口が減少し、税収も減るなかで、水道・下水道が維持できるのかを危惧している。	経営基盤の強化
		農業集落排水施設の統廃合をすすめていく中で、地域内の下水について、近くに敷設される予定の排水施設（管路）につなぐことはできないか。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
24	上下水道	新張地域は下水の共同処理施設がなく、個別に浄化槽を設置しているが、近年浄化槽本体にひびが入るなど老朽化しており、設備更新するにも個人が負担する金額が大きい。設備更新に対する助成制度の創設を望む。 新張地区においては、30年前に下水の共同処理施設の建設を要望し計画をすすめていたが、建設後の個人負担が浄化槽の設置と比べて高額となることから、地元として反対の声が上がり中止に至った経緯がある。近年浄化槽本体にひびが入るなど老朽化しており、設備更新するにも個人が負担する金額が大きい。地域全体として将来にわたり抱えていかなければならない問題であると捉えているが、今後住み続ける若い世代のため、共同処理場の建設を望む。 浄化槽の更新について助成金制度を創設するなど早急に検討できないか。公共下水については企業会計ではあるものの一部税金で賄い管理運営されており、その下水施設を利用できる地域とできない地域がある。市民の公平性を保つ観点から浄化槽を設置している世帯への助成が必要である。 全国的に問題となっている水道管の老朽化については計画的に改修してほしい。 上野浄水場を整備する際に、小八賀川から取水しているが、平金鉱山の影響が問題となっていた。水質検査では影響はないという話だが、毒素は蓄積することから長期的に見ると不安である。長期的な健康被害なども調査してもらいたい。 凍結防止ヒーターを設置するが完全に防ぐことができない。凍結対策として少し水を出せば凍結防止につながるため、冬季の水道料金について減免措置を検討してほしい。 上野の水道はH23から市が管理するようになった。水圧が弱く、蛇口を2箇所開けると水の出が悪くなるほどである。水圧を上げて欲しい。	老朽化する施設・設備への対応 安全・安心な水道等への維持
25	公共交通	バスの稼働率がどの程度かわからないが、利用したいと思っても使いにくい。時刻表を確認したが運行時間等が悪く不便だと感じた。大きなバスでなくても小さな車両で良いので、意見を聞いてルートや運行時間の見直しを行って欲しい。 高山厚生病院が閉鎖となり、今後の高齢化を考えると、通院や買い物などの足が不安である。のらマイカーなど公共交通の日の便を増やしてほしい。 とくし丸の営業だけでは足りなくなっている。公共交通やデマンドタクシー運行の議論を以前行っていたが、国のストップがかかった状態で止まっており、議論をすすめられないか。 のらマイカーなど地域公共交通の充実を望む。 高齢化に伴い地域における公共交通については、利便性の高い交通体系を構築することが重要かと思う。 高齢者の移動手段の充実を図るため、公共交通の見直しを検討してほしい。 市内を走る巡回バスの乗車率の向上のため路線を見直した方が良いと思う。バスのルートについては東西を往復する路線と南北を往復する路線にして、各路線を乗り継いで目的地に向かえるようなバス路線を提案する。 交通格差の是正として、公共交通機関の充実や、利用助成を望む。 のらマイカーについては1日3便ほどがあるが時間帯が合わず利用しにくい。朝に市街地に向かう便があるが、昼に岩滝に帰る便がない。増便について検討してほしい。 広大な面積を有する市においては、地域間のアクセス向上のため、交通網の充実を図る必要がある。 過疎がすすんでいる地域に対して公共交通機関の充実を切に願う。実際、奥飛騨温泉郷地域から上宝地域まで所用で行って帰る場合、乗り継ぎが不可能である。行政手続きのため、上宝支所まで行く必要があったが、往路のバスはあるが、復路のバスが間に合わないことがあった。 バスで高山地域に行っても帰りのバスまでの時間が非常に空いているため、困っている利用者が多い。同じような地域の成功事例を調べて公共交通について見直しを検討してほしい。 バスの利用が少ない。どうせ採算が取れないのであれば、せめて利用を増やす策として利便性の高い区間を無料にして、バスに乗ってもらえばどうか。 高齢者が免許返納した場合の公共交通について、バスの本数が少ないなどの不便がある。行動範囲が狭くなることや患者が通院を諦めることにもつながる。公共交通の充実を望む。 匠バスの利用が少ない。観光客はバスには乗らない。市民のために有効活用してもらいたい。 各支所地域へのアクセスを促すような施策を検討してほしい。 通学、通院するのにはバスの本数が少なすぎる。1本でも多くバスの運行を増やしてほしい。併せて高齢者向けの個別タクシーの運行も検討してほしい。 のらマイカーの乗車率が著しく悪いので、料金の見直し等を検討してはどうか。 移動について、幹線はバス会社、枝葉の部分を地域公共交通などと言われるが、利用者である市民にとっては関係ない。一体となって利用しやすい公共交通を検討してもらいたい。またデマンドなどはよくわからないため、わかりやすく情報発信してもらいたい。 上宝・奥飛騨には、薬、化粧品、衣類、紙おむつなども売っておらず、日用品も限られている。上宝地域は運転出来ない方はバスで神岡へ行くため、飛騨市と協力して、例えば市民乗車バスを神岡まで延長するなど、上宝地域の方が神岡へ安く行けるような政策をお願いしたい。また、同じ市内なのに高山地域とそれ以外で分けることを見直してほしい。上宝・奥飛騨管内100円でもお店がないため、利用しない。 路線バスの運賃についてJR沿線である下呂線と(競合がない)山間部を走る清見線の運賃を比較すると距離は同じなのに、清見線の方が料金は倍も高い。マイナンバーカードを利用した助成システムを検討するなど移動コストの地域格差の解消について取り組みをすすめてほしい。 ほとんどの外国人観光客は車で移動ではないため、支所地域に行くには交通手段がないと聞く。支所地域の住民は観光客を望んでいるため、支所地域へも観光客が訪れやすいよう公共交通について見直すなど検討してほしい。 観光客や地域住民の利便性向上のため二次交通整備を積極的にすすめてほしい。 奥飛騨温泉郷内の駐車場の空き情報が把握できないため、市街地のシステムに組み込むなど何らかの方法によりオンライン上で確認できるよう整備してほしい。 平湯バスターミナルが夕方5時になると照明が消え真っ暗になるため、濃飛バスへの要望や対策を検討してほしい。 交通の便を良くすれば外国人観光客が支所地域へも足を運んでくれると思う。 まちなかの渋滞問題の原因は市営駐車場がまちなかにあることだと思う。郊外に市営駐車場を整備してパークアンドライドをすすめるべきと思う。 高齢化し運転できなくなることを考えると公共交通の充実を望む一方で、バス停から遠い家もあり、バス以外の交通システムについても検討してもらいたい。 江名子町ですすめている地域内での乗合タクシーの取組みは岩滝地区でも可能なのか。	バス路線の見直し等公共交通の見直し 公平な料金体系への見直し 観光客の移動しやすい環境の整備 新たな交通体系への対応

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
25	公共交通	公共交通についてライドシェア等国の施策が荘川地域でも効果があるのであれば早期に検討してすすめてほしい。 高齢者の移動手段について、NPOを立ち上げるとか新しいビジネスができるかもしれない。 JA等の地域の商店が減ってきているため、のらマイカーなど市内巡回バスに食料品や日用雑貨品を載せて移動販売車として活用できないか検討してほしい。 まちなかに駐車場が少ない。市営駐車場はあるが上限価格が設定されていないため、駐車代金が高額となってしまう。	新たな交通体系への対応 中心市街地の市民利用の促進
26	道路	江名子・松之木間の道路整備について江名子側の整備にも着手してもらいたい。 都市計画道路について。何十年も前から計画されており、実現が見込めない道路も中にはある。都市計画道路上の土地は利用制限があるため、見込みのない道路は計画を見直してほしい。 国道361号の朝日町甲地区から美女街道につなげる道路の建設を望む。 国道361号線、野麦街道、高トレなど、道路周辺の草や雑木がひどい。観光客も多く通る場所のため、除去をお願いする。 158号線の国分寺や上一之町の交差点の状況が何十年も変わっていない。改良が難しいのであれば道路網の再整備を考えてほしい。 国分寺通りが渋滞になる要因の1つには、右折レーンが無いためと思われる。 まちなかの渋滞問題は右折専用レーンが少ないことだと思う。市内道路の再整備を実施してほしい。 外国人観光客等で歩行者通行量が増えていると思うが、交通量が多い旧国道41号については歩道がなく危険を感じている。東西を結ぶ道路には歩道はあるが、南北を結ぶ道路には歩道がない。歩行者量が多い道路の安全性を確保してほしい。また消えかけた白線も改修してほしい。 宮高山バイパスについて難航していると聞く。国道41号線のための、事故や災害が発生すると迂回が大変不便となる。バイパスの早期実現に向けて、市も取り組んでもらいたい。 中部縦貫自動車道の平湯～丹生川間について早期の事業化を要望する。 中部縦貫自動車道の全線開通が早期に実施されることを強く要望する。 筏橋からえび坂までの電線地中化が行われ、えび坂が通行止めとなる話を聞いた。地域にとって影響が大きいので、早めの情報共有を図ってもらいたい。 災害を考えると、国道や河川など、国管理・県管理だから市は手が出せないということはわかるが、地域からすると国も県も市も関係ないため、様々な機会でも国や県へも継続的に確認を行って欲しい。 高速道路について、高山市街地に向かうのに誤って荘川インターや、白川郷インターから流出する人が今でも多くいる。飛騨清見インターという名称が混乱を招いていると思うため、インターの名称変更について国等へ要望できないか。 中部縦貫自動車道の丹生川ICまでの開通がどのくらい先かわからないが、中間ICの設置を早期に実現して欲しい。中間IC設置のためには市の負担も生じると聞いているため、計画を密に練ってもらいたい。 上野は景色が良い。北アルプスの山並みが一望できる。中間ICに展望台の設置など景色を利用できる施設が良いと思う。 埋立処分地の跡地に公園を整備すると聞いた。子どもが遊べる場所が少ないと感じるため、公園整備が良いのではないかと思う。 県道の冬季の凍結がひどい。また、ナビで設定すると狭い県道に誘導される。狭い県道よりも広い農免道路へ促す看板設置などを検討してもらいたい。 建設業だが、災害復旧が終了し、仕事が減ってきている。土木に限らず仕事を出して欲しい。 除雪事業を請け負う事業者の多くは除雪に必要な重機をリースしており、降雪量の影響で除雪作業が少ない場合は赤字となるため、除雪事業から撤退する事業者が増えていると聞く。将来的に除雪事業者を確保する観点からリース代等の固定経費を支援することができないか検討してほしい。 観光のまちの割には自転車道の整備がされていない。自転車にやさしいまちにしてほしい。 前市長本人から市長在任期間中は西町の陳情を止めていることを聞いた。そのため、道路側溝が古く改修されていないままなので、何とか整備してほしい。 さんまち用水などでは集中豪雨や除雪した雪で側溝が溢れると床下浸水になってしまう。これは道路改修によって民地より道路敷のレベルが高くなっていることが原因であると思う。道路改修時は現在の道路レベルを保って施工するべきと考える。床下浸水にならないよう道路敷のレベルを下げる改修を計画的にすすめてほしい。また、さんまち用水の流水量を高める改修工事を実施してほしい。 開発道路や位置指定道路については法人化している自治会やまちづくり協議会へ譲渡して管理してもらうように移行してはどうか。不動産事業者が倒産した場合の土地の取り扱いとして法律上では特段のルールはなく、管理していた道路も所有者不明土地となる。また、不動産事業者によっては自社が管理する道路用地も含め担保にして融資を受けているケースもあり、倒産により道路用地の所有権が暴力団に移り居住者やトラブルになるケースもあり、実際市内でもあった。自治会等への譲渡が難しい場合は市で譲渡を受けて管理してほしい。 小学校の通学路の安全対策を図ってほしい。ガードパイプの設置などを進めてほしい。 最近、路側帯の白い線が引かれていない、見えない道路が増えてきていると感じる。高齢化のことを考えると心配である。 田畑だった土地が宅地造成されたが、側溝の深さなどのインフラは以前のままだとあるため、排水能力などに不安がある。随時改良をお願いしたい。 将来の高齢化を見越して、今のうちから道路の段差解消を行って欲しい。 158号線と41号線交差点付近で渋滞がひどい。市道を迂回路として利用されるが狭かったり、駐車場をショートカットするなど危険がみられる。国道や県管理で難しいことは理解するが、市道も含めた全体の交通対策として考えて欲しい。 北山橋が流木でせき止められる。取水のためのえん堤が邪魔をするが、撤去できない。橋脚のない橋にできないものか。 宮川緑地付近の雪捨て場について、道路が狭く、交差点付近の傾斜が強いので、事故が多発している。なだらかにするか、交差点付近の高さを維持した改良など対策を行って欲しい。 道路の通行規制について、地元の意見や要望が多く集まれば変更することはできるのか。	道路交通網の整備 計画的な整備や長寿命化の推進等によるインフラ施設の維持

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
26	道路	道路修繕のため情報提供書を支所に提出したが、受付期限が過ぎているとことで対応されなかったが、危険箇所については早急に修繕してほしい。	計画的な整備や長寿命化の推進等によるインフラ施設の維持
		道路へ枝が伸び通行・歩行に支障が出ている箇所については、伐採するなど早急に対応してほしい。	
		除雪の方法について見直す時期が来ていると思う。両側に住宅が立ち並ぶ地域には、現在のように家の前に雪の壁を残していくような除雪はもう変えるべきである。場所に応じた除雪対策を業者や地域と一緒に検討してもらいたい。	道路除雪への対応
		宅地造成によって整備された開発道路については開発事業者の管理となっているため、行政からの除雪対象外の道路となっている。開発道路沿いの世帯では毎年、除雪費用を積み立て、事業者に依頼しているが、市道沿いに住んでいる世帯と比べると不公平感を強く感じる。	
		除雪されない開発道路沿いの世帯は毎年大変な思いをしている。そんな親を見ている子どもは果たして将来戻ってくるのかと疑問に感じる。	
		除雪後にできる雪の壁については、とても硬く除けるのに大変苦慮している。	
		除雪について、国道は早いですが、市道は遅く、特に東西方向の道路は酷い状態となる。緊急車両も通りにくいことから除雪の充実を図ってもらいたい。	
		市内の冬季除雪の状況について、市も当然気づいていると思うが、車だけでなく歩行者も通るのが大変なほど凸凹なのに何日も除雪されず仕事でも私用でも危険を感じながら通行することが当たり前になっている。特に懸念されるのが、緊急車両の通行である。通行量も多く住宅も集中している市内中心部は特に、緊急時に緊急走行できないのでは、命にかかわる。また、観光や仕事に車で来た人たちは二度と来たくないと思う。降雪地域であるため、冬の除雪はライフラインそのものである。もっと予算を上積みして業者委託数を増やすか、融雪設備を設置するなど真剣に取り組んでほしい。	
		バトカー、救急車など市内を走る車両に冬季はスパイクタイヤを装着すれば、道路を削るような走行となるため、ミラーバーンの解消になるのではないかなと思う。	
		ガソリン代の高騰により交通費を抑えた旅行者が増えると思われる。交通費軽減対策として安房トンネルが無料化になると良い。	誘客に資する道路施策の検討
		高山や奥飛騨を知らない大学生等の若者が増えていると聞いた。魅力ある温泉街として認識されるようSNSで取り上げられるような(映える)道路を少しずつでもよいので整備することができないか。	
		平湯温泉街に歩道がないため、安全面を考慮して整備してほしい。	
		高速道路の料金が低い。支援策が欲しい。	
		安房トンネルの無料化については開通後から要望を出している。今後の方向性について教えてほしい。	
		外国人観光客は旅行先で散策することを好むと伺っているため、丹生川地域においても散策しやすい道路整備を望む。	
		神明駐車場のトイレを洋式化して欲しい。	
27	情報	昭和40年代からの長年の取組みにより観光都市として成功しているが、今後もうまくいか不安である。これからはITやAI、バーチャルの拠点を作って、バーチャル世界の中で心が安らぐ場所として高山を位置づけ、世界の人が惹きつけられるようなまちになると良い。	最新技術の活用による魅力向上・情報発信
		木に対して興味を持ってもらうよう建築組合でも情報発信をしてPRしているが、行政など市全域で連携して取り組むべき。また、高山市は飛騨市と比べて情報発信量が少ない。情報発信についてはすぐにできる取組みかと思う。	
		リモートワークがコロナ禍で進んだなかで、高速・大容量の通信システムを安価な価格で提供できる環境づくりが必要かと思う。	
		市の事業でWi-Fi環境を整備してもらい有難く感じている。整備した環境を活用するため、例えば入湯税については現金で徴収しているところが多くあるが、DXの観点でクレジット払いや電子マネーに対応する等観光客が利用しやすい観光づくりをすすめていかなければならないと思う。	情報伝達手段の改善
		ラジオの電波が弱い地域はテレビ回線を利用してラジオを聞いているが、停電するとラジオが聞けない状況に陥る。停電時の情報受信手段は防災ラジオに頼るしかないため、基地局の整備などをすすめて、ラジオの受信エリアを拡大してほしい。	
		Wi-Fiにしか対応しない携帯を持つ外国人観光客が多いため、駐車場や多くの方が利用する施設を中心にWi-Fi対応エリアを広げてほしい。	
		大雨等の災害で通行止めとなった道路の解除情報についてはすぐに発信し迅速な情報共有に努めてほしい。	
		各事業所の活動に対する周知方法について支援がほしい。例えば、市が情報を集約して公開することができないか。	
28	景観	息子が鬱になって戻ってきたが、高山の自然に触れて5年経って改善した。計画的な自然景観の保全を望む。	自然景観の保全
		太陽光発電や水力発電など自然エネルギーの発電施設が増え、今後の景観が心配である。事業を撤退した場合、発電施設が放置されないような対策を将来的に検討する必要があると思う。	町並景観の保全
		神明町など日枝神社の通りについて電柱の地中化を検討してほしい。	
		中橋から見える柳の木が、ガードパイプに食い込んでいる状態である。また、中橋の桜も根本部分が大きく成長し、護岸を崩さないか心配である。観光客が多く集まるエリアでもあり、きれいに整備する必要がある。新しいものを作るのではなく今あるものを活かし、整備をすすめてもらいたい。	
		高いホテルなどが乱立しているが、高い建物は高山にふさわしくないと。高山にはやはり木を活用した建物がふさわしい。住宅に限らず、今後建てる建造物は木を活用したものにした方がよい。高山城について話を聞いたが、その際はぜひ木を活用してほしい。	
29	地球環境	地区の特徴は山・農業・畜産である。その中でも山が保全されていないと川の氾濫などに繋がる。山の自然をしっかりと守ってもらいたい。	森林の保全
		山を削って太陽光を設置するのはかえって環境破壊ではないか。行政として規制してほしい。	
		国立公園内に位置する関係上、環境省のルールで引っ越して来てでも新しい家を建てることのできない地域となっているため、平湯地域は移住者を望めないところである。	
		東小の太陽光発電が設置されているが、自家消費のみで、蓄電池も設置されていないため使いきれしていない。	計画的な自然エネルギー開発
		蔵柱にメガソーラーが建設されているが、水が白濁する。開発許可を出すのは市であり、現状を把握し、情報を教えてもらいたい。	
		奥飛騨温泉郷地域においては地熱発電が活発にすすんでいるが、このままでは温泉資源を発電事業者にとられてしまわないか懸念しているところである。送電規制の検討や発電事業で得た利益を地元還元するようなことを市から発電事業者へ要望してほしい。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
29	地球環境	脱炭素先行地域の選定を受けたが、高根地域でも小水力発電が稼働又は計画されており、自然エネルギーの活用に向け、一緒に取組みをすすめて欲しい。 高速道路などの長尺トンネルで大量に湧水が出ているため、その湧水を活用した発電事業を考えてはどうか。 近年、太陽光発電施設の増加により、昼間の発電量がピークを迎える時間帯においては、発電量が多いと電力会社においては送電量をコントロールするため出力制御することがある。昼間の発電以外にも夜間に発電することができる揚力発電施設の整備を行い、自然エネルギーを無駄なく発電できる体制づくりを検討してはどうか。 小水力発電の開発推進をこの地域でもすすめて欲しい。 化石燃料を削減するためにペレットストーブに対して補助制度があるが、奥飛騨温泉郷地域は同様の目的で、各家庭に温泉を引いて冬の暖房などに活用している。温泉を引くことにも維持費が伴うため、補助制度を検討してほしい。補助をすることでこの地域に住みたい人が増えてくると思う。	計画的な自然エネルギー開発
30	防災	全国各地で豪雨が頻繁に発生している。山口町でも山が抜け流木が出ており、撤去について要望を出しているが放置されている。 江名子川の増水は空町などの災害を引き起こしかねない。調整池の早期の整備をお願いする。 錦町は急傾斜地が多く、情報提供書でも出しているが、順番がもう少し先になるとの回答であった。一方でその箇所の一部が崩れ応急措置は行われたが、恒久的な対策とはなっていない。早急に整備をしてもらいたい。 桁形橋付近の宮川にある大きな木を撤去した方が良いと思う。大雨時にあの木が倒木するとさらに川が氾濫し被害が拡大すると考える。 集中豪雨による災害が続いている。堰堤工事などを施工していただいた関係で災害範囲も最小限に留まっているように思うが、各堰堤の老朽化も気になるため、点検や再整備などの実施を要望する。また防災の観点から山林については計画的な伐採をすすめてほしい。 登山客が増加しているため、焼岳の登山道に避難用シェルターの設置を検討してほしい。 急傾斜地や河川などのハザードマップに記載の危険箇所について、少しずつでも良いので計画的に対策工事を進めてほしい。 平成10年度頃に八八賀川の関係で、大島ダムという話があったが、最近動きが見えないでいる。現在はどうな状況であるか教えて欲しい。 災害時に堅牢な建物の中に避難してくださいと言われるが、この地域には堅牢な建物が無い。支所や公民館も老朽化しているため、3～4階建ての避難所となる施設の建設を望む。 上野平公民館は一時避難所で、指定避難所は東小や東山中となっているが、指定避難所へ行く方が危険であると思う。町内会では対応するつもりのため、一時避難所でも避難物資を置けるようにしてもらいたい。 河川清掃で事故が発生し、町内会としても高齢者に作業をしてもらうことに不安を感じる。業者への委託を検討してもらいたい。 急傾斜のえん堤に雑草が生い茂り、地盤が見えないため、災害の予兆である流水等を感知することすらできない。撤去できないものか。 大八賀川の堤防の強化について県へ要望したが、災害が起きていないと強化してもらえないとのことだった。災害が起きてからでは遅いため、市からも強く要望してもらいたい。 北山は岩盤がしっかりしていると言われるが、防空壕などの穴があり、近年では大きな木もあることから、それらが崩れてこないか心配である。しっかりと調査してもらいたい。 北山のがけ崩れの予兆を感知するセンサーの設置など、災害が起きる前の対応ができるシステムの導入を検討してもらいたい。 擁壁の裏に土砂が堆積している状態である。土砂の除去をお願いしたい。 河川改修の県からの説明に、苔川の災害は越後谷等の開発の影響という話があった。開発や土地利用など市のビジョンを明確にして根本から対策していかないと対処療法では追いつかなくなる。 荏名団地がイエローゾーンとなっており不安があるため、不安の払拭に取り組んでほしい。 災害時の町内会における初期対応で特に必要なのは安否確認である。班単位で確認を依頼しているが、班長によっては町内会未加入者に対しては確認しないという考えの方もいる。 町内会の役員も任期があり、災害対応等で継続が難しい。長期的に関わってくれる人がいないと、いざ災害が発生した際に動けない。行政の支援が必要である。 東小の防災クラブがマップを作成するため、指定避難所と地域の危険箇所を落とし込んだところ、地区に指定避難所は2か所(東小・東山中)で、どちらも危険箇所が近いが大丈夫か、という声が上がっている。子どもたちが心配している。 防災時の市から各町内会に対しては近隣における助け合いを求められていると思うが、同じ指定避難所を使用する町内会同士の連携も必要である。そのため、指定避難所から遠い町内会を考慮する等指定避難所を平等に利用できるルールを策定してほしい。 福地地域では焼岳の噴火を想定した避難訓練を実施しているが、近年、訓練のマンネリ化が気になるところである。一部の住民しか参加していないため、災害リスクを地域住民全員が持つよう防災意識の向上を図ってほしい。 防災士資格の取得者が地区内でも増加しているが、防災士育成のための環境づくり・支援体制があるとよい。 高校で防災士養成講座を行う。若い防災士を増やして、要支援者を支える仕組みを作っていく。 災害に関しては比較的少ない地域である。 西之一色町コミュニティセンターは急傾斜地にあたり、避難所としては使えない。飛騨センターや松倉中が指定されているが高齢者には遠いため移動ができない。苔川西側のエリアの避難所を検討してもらいたい。 災害時における町内会未加入者への対応について、町内会として未加入を理由に支援しないということはあるが、これには賛否両論ある。市としてもそのような方への対応について考えてほしい。 避難行動要支援者名簿(台帳)について、登載情報に誤りが多く、信頼性を欠いている。修正の依頼をしたが、未だ更新されていない。早急に対応してもらいたい。 町内会未加入者の避難行動要支援者の情報について、町内会の方では全く把握できていない。せめて町内会には提供してほしい。 避難行動要支援者名簿(台帳)の個人情報の取り扱いについて、毎年交代する町内会長には提供されるのに、民生児童委員には提供されない。そのあたり、柔軟に対応いただきたい。 町内会独自のハザードマップについて、地域住民自らの手によって作成できると良い。市として必要な支援をお願いしたい。 災害の規模によっては、地域が孤立し、指定避難所までたどり着けない可能性がある。地域の身近な一次避難所に備蓄品を配備するなど、災害備蓄品の分散を進めてほしい。	森林の保全 災害の未然防止に向けた危険箇所の整備 災害の事前準備等を踏まえた市民啓発

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
30	防災	町内会単位で防災備蓄品を購入・配備することが必要である。発電機や蓄電池など、防災備蓄品の配備に対する補助制度をつくってほしい。	災害の事前準備等を踏まえた市民啓発
		避難所に行くにも橋を渡るのが危険で、むしろ移動しない方がよいのではないかと思うこともある。町内などの大きな区切りではなく、もう少し地域を細かく見て避難を呼びかけるなど研究が必要ではないかと思う。	
		土砂や川の水位などでの避難指示について、家にいた方が安心と言って避難されない方もいる。本当に避難が必要な方に対してピンポイントで指示できると良い。	
		北小へ避難したところ、雨漏りがあり、避難する場所がない。警察署建物は一時集合場所として長時間いることはできない。安心して避難できる避難所の確保をお願いしたい。	
		あまり個別に線引きをすると、想定外が起きた時に対処できなくなる。グレーゾーンを作っておいて、個別の災害に合わせて対応していくことが重要と思う。	
		危機管理課の職員は男性のみであり、防災では女性の視点は必要と思う。	多様な視点による災害への対応
		防災に異動がない専門職の職員を配置している自治体がある。飛騨市でも任用されたと聞いている。防災計画や地域防災をけん引しうまくいっている。専門性や長期にわたる経験が必要なことから市にも必要と思う。公助でできることをもう少し増やして欲しい。	
		市役所内部における防災研修を充実させるなど、防災・危機管理に関する人材育成をしっかりと進めてほしい。	
		台風や大雨の際に、空町から東小へ避難することには無理があり、図書館へ避難するしかない。一方で防災備蓄や発電機がないため、不安に感じており、まち協では対応できない。分散備蓄や自家発電等の電源の確保について検討をすすめてもらいたい。	
		災害時の命や財産については行政に頼りっぱなしでは守っていくの困難である。各コミュニティの中で共助していく必要がある。丹生川地域全体でまとって実施するのは困難なため、各地域にあった方法で実施することが大切である。実施していく中で、一緒に取り組む地域を徐々に大きくしていけば良いと思う。まずは自分達で考え実施していくことが大事で、地域でできないことは行政に頼れば良いかと思う。	
		避難所については、体育館などの施設が中心であり、プライバシーの確保に限界がある。海外の事例のように、世帯ごとに屋外テントを設置するなど、そのような方法も検討するとよいのでは。	災害情報等の伝達
		大規模災害によって高山市が甚大な被害を受けた場合、被災の少ない隣接の自治体が応援に入るなど、広域的な連携・協力体制をしっかりと確立してほしい。	
		避難した経験者から話を聞くと、電気が止まるから避難をしたとのこと。避難を促すのに効果的と考えるため、電気事業者と連携した取組みをして欲しい。	
		町内会でも防災意識を高める取組みをすすめているが、災害時などの情報の取得について検討してもらいたい。屋外のスピーカーは聞きにくく、防災ラジオも使いにくい。防災に特化したアプリなどDXを活用し、高齢者でも使えるようにするなど、しっかり情報が伝わる方法を構築して欲しい。	
		FMラジオ(防災ラジオ)が町内全域で聞けるように整備して欲しい。	
		大雨のときに、防災無線が聞こえない。外に出ても聞こえない。石浦町では2か所のスピーカーが設置されているが、もう少し細かくスピーカーを設置できないか。	
		災害時に有効な連絡体制の構築が必要である。統一的なアプリなど、市としても支援いただけると良い。	
		災害時の安否確認の方法について市と地域がいっしょになって検討する必要があると思う。	
31	安全	市内の夜間とはとても暗く、特に街灯をLED化したことによりさらに感じる。防犯上も問題であると考ええる。	防犯・交通における安全の確保
		神明交差点が混雑し、観光客も多く、危険を感じる。中橋ではなく迂回路(橋)の整備や時間帯での規制など、具体的な対策が必要である。	
		信号を守らない観光客が多い。	
		交通事故が発生しても詳しい内容や対策の情報がない。なぜ事故が発生したのか、どのような対策が有効なのかなどを見える化することで、事故が活きてくるのだと思う。交通行政として働きかけや検討してもらいたい。	
		県道の交通量が多く、危険性が増している。子どもの交通安全はもちろんのこと、防犯面の不安もある。先日は公民館に不審者が入った。防犯カメラの設置を検討しないといけないが、市の支援について教えて欲しい。	
32	消防	消防団員について、今後さらに確保することが難しい。機能別団員などの活用をして維持していく必要がある。	持続可能な消防団活動への対応
		消防団活動については負担を減らすよう引き続き検討してほしい。	
		消防団について、定員割れしている分団もあり、支障が出ている。再編成を考えていかなければならない時期に来ている。市が素案を示してみんなで協議していくのも一案ではないか考える。	
		消防団への装備が充実し、消防署(常備消防)並みの装備になっているが、使いこなせていない。非常にもったいないと感じる。現場の声を拾い上げて欲しい。装備にかかる財源を子育てなど、他の施策に回すことも重要と考える。	
33	行財政運営	上宝地域には救急車1台しかないため、救急体制については見直してほしい。	緊急時への対応
		医療や学校教育など、親も子も住みやすい環境づくりのため市民の意見を聞きながら取組みをすすめてもらいたい。まち・ひと・しごとの中でも「ひと」を中心に大事にしたい。	
		市長が学校で児童から直接質問を受ける機会が設けられた。市長もわかりやすく、真剣に答えてくれた。非常に良い時間となったと感じた。そのような取組みを計画にも反映されて欲しい。	
		市民の思いと市の考えに齟齬が生じない計画としてもらいたい。	
		まちづくり協議会としては減少を停めなければならないと思い、未来戦略を作成中である。自分たちでできること、行政でやってもらいたいこと、誰がやるのかを明確にしないといけないと思っている。九次総でも人口減少を停める、右肩上がりにするために何をやるのかを載せて欲しい。	
		県内の市役所に行ったら、案内する方が丁寧に対応してくださりスムーズに用事をすませることができた。また、土日も行政サービスが受けることができるとのこと。市民サービス向上に向けた取組みをすすめてほしい。	
		市に望むことは、職員の窓口や電話対応について改善してほしい。	
		新潟県長岡市役所の窓口はワンストップで各担当課の職員が交代して対応していると聞いた。高齢者や福祉の観点で市民が市役所内を回らなくてすむようにワンストップ窓口について検討してほしい。	
		改修が必要な道路箇所について市役所へ連絡すると、県道など市の所管でない施設の場合は話も聞いてもらえない。	
		河川や災害、急傾斜など、県や国に意見を出す機会がない。市を通して伝えていただくほかないため、地元の切実な思いを強力に出してもらいたい。	
		各種事業について市の内部だけで検討をすすめるのではなく、民間の知見を活かして官民一体の事業の組み立てができるとよい。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
33	行財政運営	都市部からお嫁さんを連れてきたことへのインセンティブなどユニークなアイデアを出し合い、楽しいまちづくりができると良い。 市民目線の普通と行政目線の普通に隔たりがあっては良くなっていかない。意見交換などを通じて意思疎通を図ることが重要である。 総合計画については既に第八次まで計画されていたのかと今更ながら知った。 知らない市の施策、事業がたくさんあることがわかった。 イベントに関する補助について、補助額は少額でもいいのでもっと自由度があれば、いろいろな人がやってみたいと思うのではないかなと思う。 総合計画を読んででもなかなか理解できない。若い世代ほどまちづくりについて理解するの難しいと思う。誰が見てもわかりやすい計画を策定してはどうか。 子育て支援団体の今後の活動を継続するための資金提供を引き続きお願いしたい。 仕事と子育てを両立できるモデルケースとして市役所が率先して取り組んでほしい。市職員自身が幸せでないと、市民を幸せにする施策を考えることはできないと思う。 総合計画をパブリックコメントに出すときには、わかりやすい提示で意見が出しやすい工夫をお願いしたい。できれば無記名となると良い。 意見交換会について自由に意見を求められても意見しづらいと思う。具体的な案の提示や、テーマを絞ってすすめてほしい。 説明会のすすめ方については有意義なものとなるよう検討してほしい。 まちづくりアンケートを全世帯対象に実施することはできないか。様々な意見を集約できると思う。 市民アンケートについては、感覚的なことを伺う設問の場合はプラスの方へ回答する傾向にあると思うため、行動的な要素の設問も調査に加え、現実的な結果になるように設問については検討してほしい。また、アンケートの分析については年代別などクロス集計を取り入れた方が良い。 まちづくりアンケートについては比較的高齢層の回答者数が多いと思われるため、回答数の多い意見のみに着目してまちづくりをすすめないでほしい。若者の意見も尊重してほしい。 アンケートについては市民以外、特に市外で暮らす若者を中心に実施してはどうか。市外の人の意見や考えから人口増加につながるヒントを得ることができると思う。現在、住んでいる市民を対象に調査をしても現在の生活環境を当たり前と感じているため、施策につながるような意見を得ることは難しいかなと思う。 市民アンケートについては子ども向けに実施し、市の将来を考える機会を創出してはどうか。また、高齢者にアンケートをしても課題として上げられるのは「医療」「福祉」と結果がある程度予測できるため、調査をしてもあまり意味がない。 市民が市政に興味を持ったのはコロナもあるが市長選もあったかなと思う。市民が革新、変容を求めている表れてはいるかなと思う。 八次総の中身を把握していないのが本音であり、意見と言われても難しい。話のテーマが漠然としており、もう少しテーマを絞れないか。 総合計画策定に向けて市民全員から意見を伺うことは困難であるため、市内の様々な団体との意見交換を実施してほしい。 八次総でできなかったことを九次総に引き継いでしっかりと取り組んでほしい。 九次総と言われるが、七次総・八次総の達成状況があつてこそ九次総にすすめられるのではないかな。市民目線では八次総を理解している人の方が少ない。 市政への関心が高いのは良いことだが、分析をすることが大切であり、満足度が低いところをきちんと反映してもらいたい。 八次総の結果がないと次につながらない。しっかりと公表し、九次総につなげてもらいたい。 八次総の振り返り、成果と課題、その検証が必要である。地域のまちづくり・取組みがどうなったのかの総括が必要と思う。九次総においても地域の特性を活かしたまちづくりの視点は重要である。 八次総の評価検証をしっかりと行ってもらいたい。 今までの総合計画について知らないまま策定されているため、内容を把握できていない。次期計画のたたき台を示してもらえば、より具体的な意見や提案をできるかなと思う。 計画についてはどんな様式でも読みたくない。そもそもそれに割く時間や人件費が無駄である。読んでもらうことより、実行して市民が市って良いまちだと実感できることが大事ではないか。 第八次総合計画の時の地域の課題が、改善及び解決出来ているとは思えない。感心も低い気がする。 ふるさと納税で「市長におまかせ」というメニューもあるが、ふるさと納税を実際どのような事業に活用しているのかが不明であるため、市民に対して広報等で示してほしい。 5年前にもこのように意見交換が開催された。その時に出た意見がどのように反映されたかを見えるようにしてもらえると意見が出しやすい。次期の際の意見交換で検討してもらいたい。 総合計画についてこれまで考えたことがなかった。多くの市民が同様だと思う。多大な労力を使って計画を策定しても市民への還元がない。市民にアピール、知ってもらふ機会の創出や取組みの経過報告があっても良いと思う。 県の事業などでできることがあることを要望等で初めて知ることがある。県の取組みなどもしっかりと市民に周知してもらいたい。 市長が代わってから、何かを始めるにしても非常にスピーディーになったと感じる。大変有難いことだと思っている。 徴収した入湯税の使途について明確に示してほしい。 このような地区の状況がわかる資料をもらって、話し合える機会があつて良かった。 意見交換会で出た意見については何らかの方法で提示してほしい。	市民・地域・行政が一体となった市政運営
		公共施設や福祉施設が地区にないため検討してもらいたい。トンネル残土を利用できないかなと思う。 三枝地区には公共施設がない。文化、環境、福祉など、地域の住民が楽しみを感じられる施設が欲しい。 使われていない公共施設などを有効に活用してほしい。例えば、荘川地域の地域資源を一ヶ所に集め紹介する施設をつくり、この施設を起点に荘川地域を巡ってもらふと地域の活性化につながるのではないかなと考える。また、施設には学芸員の配置も必要である。 地域活性化のため廃校になった校舎の活用について取り組んでほしい。 新潟県長岡市役所の駐車場は屋根を設置し、そのスペースを活用したイベントの開催や、イベントがない時はフリーの飲食スペースとして活用して多くの人で賑わっていた。市も賑わい創出のため駐車場などの土地利用について検討してはどうか。	PDCAサイクルによる行政運営 市政に関する市民へのフィードバック 計画的な公共施設の整備・民間活力の導入

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
33	行財政運営	人口減少、高齢化により税収が落ちる見込みであると思うが、日本一の広大な面積を有する高山市において各インフラ施設の整備についてはより計画的に考えていかなければならないと思う。	計画的な公共施設の整備・民間活力の導入
		指定管理については、市内事業者が優先して受託できるようにしてほしい。	
		市の建築工事について、当組合のような事業者のランクでは、1000万円以下の仕事しか参加できない。市内の大工がもっと参加できるよう入札要件の緩和を検討してほしい。せめて県のランク分けと同程度となるようにしてもらいたい。	
		引き続き安定的な公共工事の発注をお願いしたい。	
		以前、当協会や土地家屋調査士会とともに市へ要望して土地界を確認し難い箇所境界杭・鋸を打ってもらったが、正しい位置に打たれていなかったため、今後実施の際は土地家屋調査士へ依頼してほしい。	
		総合計画は10年だが、世の中の変化が激しいこの時代に、短いスパンで考える必要があるのではないかとと思う。	長期を見据えた行財政運営
		新しい施設整備がどんどん行われているが、一方で市の財政は大丈夫なのか、と心配してしまう。身の丈に合った財政運営をすすめてほしい。	
		市の財政を安定させるためには歳出のコストカットだけではなく、歳入である税収をいかに増やすかを考えることが重要である。	
		以前は公務員を削減する風潮があったが、公務員が少ないと、かえって地域へのサービスが不十分になると考えるため、今後のまちづくりをすすめる上では、公務員を増やしていく必要があると考える。	
		市役所は遅くまで電気がついている。遅くまで仕事をしては、家庭や地域活動がおろそかになるのではないかと。災害などがあれば、休みなく働くことになると思うが、通常時は早く帰るような働き方にする必要があるのではないかと。遅くまで働けば頑張っているというのは、もはや民間では通用しない。	
		人口推計で60%を超える減少率が見込まれる地域がある。そのような地域も税金を使って維持していかなければならないのか。	
		人口減少に伴い市の税収も減少すると思うが、市税を増額する等の考えはあるのか。	
		行政に届け出をしていない、いわゆる隠れ民泊施設からも税金を徴収するよう税収確保のため民泊施設の調査を行う必要があると思う。	
		ケーブルを引こうとしたところ、旧高山市以外は工事費を負担、修繕を依頼したところ出張費を追加、ヘルパーをお願いしたら高根は遠いため週1回で、など地域の差別ではないかと感じている。市として旧高山市という言葉は使わせない、使った場合には指導するなど、本当の意味での合併を目指すということを計画に入れて欲しい。	地域間の格差是正
		高根地域から市役所の本庁まで会議に行くことがあるが、往復で2時間近くかかる。できる限りリモートで参加できるようにしてほしい。市役所内の一つの会議室をリモートが可能になるような設備を常設し、職員にも負担がかからないように整備してはどうか。	
		東京から京都に文化庁が機能移転した。市役所も同様に各支所に特定の部署を機能移転してはどうか。主要部署が各地域にあることでそこに訪れる人が増え、支所地域の活性化につながると思う。	
		市全体に関わる政策と地域に特化した政策とを明確に分けて計画に記載して欲しい。広い市域を統一した考えで全ての政策を検討することに無理があり、地域特性を考慮した政策にしてもらいたい。	
		エンジン02でも高山は文化性が高いという話があった。観光客も高山は良い街ということ聞く。一方で市民はどこを大切にしたら良いのか、理解していないと思う。コンセプトやビジョンを明確に打ち出して欲しい。	
		農家が減少しているのに、小さな田んぼのために用水が必要で、大雨時に災害の心配もある。そのように個人や業者任せの開発だと不都合が出てくる。インフラ整備がしやすいような開発のビジョンを行政が打ち出し、市民を誘導していくようにして欲しい。	
		九次総では、市民全員が合言葉のように唱えていけるスローガンのようなワードを作るのが良いのではと思う。	
		人口減少について、決定的な方策が出てこない。市としての人口減対策、食い止めようとしているのかが見えない。	
		高山の西側は整備がすすんできていると感じるが、東側も同様に整備をすすめてもらいたい。中間ICもひるがのSAのような物販も観光スポットにもなるようなICになると良い。	ビジョン・コンセプトの明確化
		現計画の内容を知らないため、次期計画については多くの市民が内容を共有して、同じ目標に向かって取り組んでいけるよう、効果的な周知方法を検討してほしい。	
		第八次総合計画にできなかった課題を踏まえ、次期計画ではそれらの課題を解消できるような方向性を示してほしい。また、次期計画は誰にもわかりやすく共有できる計画を策定してほしい。	
		九次総での将来都市像については誰が聞いても都市像・目指すまちの姿がイメージできるフレーズだと良い。	
		次期計画の基本理念はすでに考えているのか。	
		市のビジョンが非常に見えにくいので、次期計画は誰が見ても市のビジョンがわかるような内容で示してほしい。	
		計画策定において意見交換会やアンケートを実施して丁寧に意見を聞いているが、様々な意見を取り入れて総花的で特徴のない計画になるのではないかと懸念する。ある特定分野を目指すといった目標を立てないと魅力あるまちづくりはできないと思う。	
		2045年の高齢化率は人口の半分を占める割合となっている。子どもから高齢者が安心して暮らしていく社会の実現に向け、将来をどのように考え対策していくのかを総合計画に具体的に示してほしい。	
		市として、市全体を総合計画の中でどのような形に持って行きたいと考えているか。これまでは観光をメインとしてやってきたが、コロナ禍のようなことが起こると途端に立ち行かなくなることを考えて欲しい。今後も同じようなことが起こらないとも限らない。	
		市民を中心に考えた計画が必要と感じている。市民の幸せがキーワードかと思う。	
		高山市民の幸せとは何かを考えた計画が必要。現計画の概要を見てもそれについて記載されていないことに疑問を感じる。	
		明るい話、前向きになる取り組みなどを九次総に入れてもらいたい。	
		過去の総合計画の都市像を見ると、観光都市、文化都市と何か1つを目指すことができた時代であったかと思う。現在は多様性を重視する時代であるため、何か1つを目指すことが難しい時代になった。	
34	若者	転出入があまりない地区だと思っていたが、データを見ると若い人から選ばれた地区であると感じた。市全体にとって良い地区のモデルとなればと思う。	若者の流出防止
		若者の流出防止、人口減少対策として、子育て支援の充実や企業誘致による魅力ある雇用の場の確保が必要かと思う。	
		他県の自治体で公共交通も充実していない地域であったが、海外の大学を誘致した事例がある。海外の大学を誘致することで、若者も魅力を感じ、若者の流出防止対策となるのではないかとと思う。	

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
34	若者	丹生川地域の児童・生徒の評判が良いと聞く。優秀な人材ほど市外に流出してしまうが、地元に残るような施策を実施してほしい。	若者の流出防止
		人口減少の要因を分析しているのであれば教えてほしい。若者が流出しないような思い切った施策を検討する必要がある。	
		農業、畜産業などの稼業があるところは地元に残る。家業を継ぐ必要がない者は地元に残らない。地域内での転居等に対して家賃等の補助など若い世代が残る制度が必要かと思う。	
		10年後、今の中学生は成人になる。地域を担う若者の意見はどんどん吸い上げていくべきである。今の我々の世代は子どもたちが住みやすいまちを考えていく必要がある。	
		家族、地域が子どもに対して、いずれ地域を担っていく存在になることを伝えていく必要がある。	
		若年者への支援が手厚いのはいいことだと思う。自分達が年をとった時に、誰が面倒をみてくれるかあてにはできない。健康で働ける体づくりとまちづくりをしておかないといけない。高齢者が公平に働きたい、安心して年をとれるようにしたい。将来への不安がある中、お金を持っていても面倒をみてくれる若年層がいないとダメである。	
		若者の流出を防止するため住みよいまちを目指す必要があり、当会も協力していきたい。	
		若い方や子育て世代の方など10年後・20年後を背負う人の声を反映させて欲しい。	若者の意見の反映
		松倉中学校では、「なりたい自分になる」という教育方針があるが、なりたい自分になるには市外にいかなければならない状況である。将来に向けたまちづくりのため、子どもに対して意見を伺い、子どもの視点から施策を考える必要があると思う。	
		若者が活動を支援する補助制度ができ募集があったが、市の補助を活用して事業を実施したことがないため、なかなか提案することもできないかと思う。もっと活用しやすい助成制度を増やして、若者の自主活動に対して実施しやすい仕組みを整えてほしい。	
		若者の人口が少なく若者の声を聞く機会が少ないと思うため、若者の意見を聞く機会を増やしてほしい。	
		若者の声が市に届いていないことを感じる。若者も自発的に声をあげないといけないと思うが、総合計画の策定においては若者の意見も反映してほしい。	
		若者が市政に関心を持つように促す必要があると思う。今回の意見交換会の配布資料も字が多いため、若者が興味を持つような資料づくりが必要かと思う。	
		地域内で子どもや若者との意見交換会を実施し、住みやすいまちづくりに向けて地域内で情報を共有する必要がある。	
		若い人の意見を聞く場が必要である。	
		若い方が意見を出しやすい環境づくりが必要である。	
		飛騨地域は給与が少なく子どもの教育費用の負担率が高い割に、高山に戻ってくる子は少ない。戻ってこない要因として給与が少ない、遊ぶところが少ないという意見もあるが、親に相談すると反対され鬱陶しいという意見も聞く。子どもの意見を尊重することも必要かと思う。	
		市長と高校生の意見交換会を開催して、率直な若者の意見を聞いてはどうか。	
		市民アンケートは18歳以上が対象なのか。既に定住している市民だけではなく、中学生、高校生など今後の将来を考える若者の声を聞く必要があるのではないかな。	
		市議会議員について年代別や性別の枠を設けてはどうか。あらゆる方々で議会を構成することで様々な視点で市政を考えることができると思う。	
		総合計画について、10年後が想像できない中で、将来のまちづくりを考えることは難しい。将来を考えるにあたり、このような意見交換会の場に将来を担う若者がもっと参加すると良い。	
		自社の話になるが、若い従業員を確保するため、市外から就職する従業員に対して引越し費用や、転勤で市外に働く従業員には手当を支給している。都会は給与は高いが家賃等の生活経費も高いため、市からのU・I・Jターン補助と自社の支給額を合わせると実質の手取り額はそこまで変わらないのではないかと考える。若者の確保のため、若者に対して経済的経費に対する負担軽減について引き続きの支援をお願いしたい。	若者の流入促進
		人口減少に伴い地域をどのように守っていくのか、どのようにして若者を増やすかが課題と思っている。	
		Uターンや転入を考えている若者のサポートを充実させる。	
		若者が希望して働ける場を誘致する。	
		進学で都市部に行った若者が帰ってこられるための施策や環境が充実されると良い。	
		子どもにUターンを促すことを各家庭において根付くと良い。	
		少子高齢化は今や人口減少とともに、全国的な問題であるが、市も例に漏れず都会より顕著で大きな問題である。活性化より現状維持でも大変な状況である。現行の子育て支援事業に支出している予算に匹敵する程度の予算を若者のUターンや生活するための費用として企業も含めて支援を考えてはどうか。また、地元で働く若者の結婚、子育てにも手厚い支援をしてほしい。	
		進学しても子どもが戻ってくるようなまちにしてほしい。	
		子どもが地元に戻らない理由を聞く、飲みに行っても帰れない、出会いがない、遊びに行く所がないとのことである。	
		以前、進学支援の関係で面接官として高山市に戻るかどうかを質問したところ、戻ると回答した人の将来の業種は福祉、看護、教師を目指している人であった。	
		Uターンする若者が少ない。地元に戻ってきたいと思えるような魅力に乏しい。	
		市内には単身アパートなどの物件が少ない。加えて家賃も高い。Uターン者への家賃助成はあるが、1年間しか支援がない。家賃助成の拡充をお願いしたい。	
		祭などで、若者がいないことによる担い手不足を実感している。新規のホテルもでき雇用の場が生まれているはずなのに、そこで働いている人は外国人が多いという印象である。地元就職やUターン就職の環境整備に力を入れて欲しい。	
		観光パンフレットなどに若者を募集しているような内容を掲載してPRしてはどうか。	
		人口減少、特に若者の減少に伴い地域の担い手が不足し、今後行事が実施できなくなる恐れがある。移住促進として地域の魅力を掘り起こし、発信するなどして地域へ人を呼ぶ込む対策を検討してほしい。	
		企業誘致に力を入れ働く場を増やすなど、若者を増やす施策をすすめてほしい。	
		Uターン支援など若者が戻ってくるような施策をさらに拡大して取り組んでほしい。	
		大学の設置や大規模企業の誘致、特にICT関連など若者に人気のある企業など、若者の増加に取り組んで欲しい。	
		若者同士が出会う機会を持てるイベントを本気で取り組んでほしい。	結婚支援

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
34	若者	20代半ばで、収入もそれなりにあった人が都市部へ出て行ってしまった。高山では出会いがないとのことだったため、若者の出会いの場の創出に取り組んでもらいたい。 市主催の婚活・婚活イベントの開催、企業や団体が行う婚活イベントへの助成。 出会いの場の創出・企画を行っていかないと人口減少に歯止めが利かれないと思う。 結婚に関して、個人情報保護などから周りに面倒を見てくれる人がいなくなっている。人口減少を食い止めるためには独身を減らす取組みが重要である。 中山間地域は家を守っていくため、長男・長女が両親と同居するケースが多いが、結婚相手側すると、結婚し家庭に入ると結婚相手の両親の面倒を見なければならいと考え、結婚を躊躇するケースがある。両親と同居する場合のメリットとして補助金などの助成制度を検討してほしい。	結婚支援
35	その他	今の生活に不満はないが、両親も高齢化し、自分も高齢になってくることを思うと不安を感じる。少しでも不安を和らげるようなシステムを考えてもらいたい。 人口減少、高齢化など将来考えられる課題に対して何か対策を考えているのか。 人口の将来推計を見ると著しく減少しているため、不安を感じた。人口減少について他地域の住民からはどういった意見が出ているのか。 以前、北地区内で困りごとに対するアンケートを実施したところ、高齢者世帯が多いため、除雪に対する意見が多かった。その他の意見としてはバスの利便性が悪いという意見もあった。 高齢化の進行などに伴う買い物支援や移動支援、少子化への対応として義務教育学校へ移行の可能性などについて、総合計画に盛り込んでいただけたらと思う。 近い将来、少子高齢化、人口減少が予測より早くすすみ、廃れたまちになりそう。課題は非常時に弱いこと。医療機関が減り、災害への意識も低く、福祉への理解もない。何も問題なく生活できているうちは良いが、何か困りごとが起これば、すぐ生活がままならなくなる。 病院が少なく映画館もない。安心して暮らせるまちとして、また若者が楽しめるまちとして商業施設や医師の誘致等に力を入れてほしい。 (資料③の)見直しのポイントに記載していることを裏返すと、夢が持てない、将来が見えない、地域の衰退など市民が今抱える現在の不安なのではないかと思う。マイナスイメージの将来に対して、市民が幸せと感ずることが出来るまちを目指してほしい。 市が人口減少を食い止めるために子育て支援について、どのように取り組んでいるのかが見えないと感じている。 空町地区は人口減少が市内でも高い。一方で当該地区は住みやすい、住みたいまちという声を聞き、移住希望者も多い。人を連れてくる政策が必要と感じる。 将来若い世代が少なくなることを切実に感じている。朝日地域から高山地域に転居する人もいるが、支所地域に留めるために、例えば冬季の暖房費の補助をするなど、支所地域の住民に対して優遇制度を検討してほしい。 大学の誘致をしてもらいたい。県外から学びに人がくるような場所があると、若者も集まると思う。 この地域にUターンで戻ってきたても「うまみ」がない。実家が捨てられないという思いで帰ってきたが、子どもに戻って来いとは言えないと感じている。戻ってきた場合の支援について検討してほしい。 若い女性がいないと人口は増えない。女性が住みやすい観点でまちづくりの施策を考えてほしい。 子どもが関わる社会教育関連が教育委員会の所管が多いが、市は学校は教委、地域学校共同活動は市民活動など異なるために、誰がどこまで手掛ければ良いのかわかりにくく困っている。 支所地域が衰退するのはインフラ整備が十分ではないからだと思う。 市外から孫が遊びに来てでも市内に遊びに連れて行く場所がないため、富山に遊びに連れて行く状況である。 親と同居することを推奨する仕組みがほしい。 市には様々な補助金があるが、市民に周知しきれていないと思う。また、補助金が多額になるほど審査が厳しくなると思うが、20万円程度であればもっと申請を簡素化し補助金が活用しやすいように制度を見直してほしい。補助金によっては求める添付書類が多くあるなど活用するまでに非常に困難な制度もある。市ができないことに対して市民、団体を支援して事業をすすめる制度についてはもっと簡素化してほしい。 財政の規模が違うのですべて真似ることはできないと思うが、明石市が行っている福祉政策は真似できないか。例えば、こども医療費を小学生まで無料化、生後3か月から満1歳まで紙おむつを毎月無料配布、中学校の給食を無料化など、少子化に歯止めをかけるなら早いほうが良いと思う。明石市は他にもいくつか支援策を講じて、子育て家族を他地域からの呼び込みも成功している。多子高齢化なら、地域社会は安定する。また、子どもが増えたら学校も必要である。4年制大学を誘致できないか。さらには、大手企業も誘致することはできないか。 荘川地域の活性化から生まれる飛騨高山のまちづくりについて以下のとおり提案する。 1. 地域資源を活かすこと 巨樹、巨木、化石、金山資金遺構、ダナ貢献等 2. 今ある施設を有効に活用すること 荘川の里、ふるさと公園(食材供給施設を観光総合センターに)、荘川であいの森等 3. 点の資源・施設の活用から面的な企画、立案すること 上記の資源、施設から新たな需要を創出する。 人口の減少や高齢化によって担い手の不足などの課題が多いと感じている。人口減少、少子高齢化対策に力を入れてほしい。 市の特徴であり大切にしたいのは、江戸から明治時代に築かれた祭り文化や古い町並であり、豊かな自然である。それらが後世まで持続可能にするにはそれらを愛し守っていく住民が絶対に必要である。(①目指すまちの姿を明確にする、②高山に住みたいと思える環境を整える、③特に若い人に住みたいと思えるまちにする) 今、SDGsが盛んに叫ばれているが、色々な施策をすすめる上で、「持続可能な」という視点を重視してほしい。 市内の外国人労働者の国籍割合や海外資本の不動産所有率が気になる。 高齢者が学校や施設の花壇などに座って休んでいる光景をよく見る。ベンチの設置までとは言いえないが座りやすい場所を至るところに整備してほしい。 北アルプスを飛騨山脈として、飛騨を前面に押し出してPRしてほしい。 市役所の横のつながりはどうか。縦割りになって市民からの相談もたらい回しになっていないか。市民に協働のまちづくりを求めているのであれば、市役所内でも協働の職場づくりに取り組んでほしい。 あらゆる事業の見直しをできればと思う。昭和時代の「人がたくさんいた頃」にできた組織や事業、システムの見直しをできればと思う。1つの例として、来年度なくなる交通安全指導員は良策だと思う。子ども会にしても、PTAにしても町内会にしてもスリム化をしていければと考える。 市役所職員に元気がなく、市を元気にしようと考えている人が一握りのような感じがする。	生活の不安の払しょく 人口増加に向けた取組みの促進 市政全般に対する意見

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
35	その他	市内での町並み整備は着々とすすんでいるが、支所地域での改良要望地点の改良については一行すすんでいないように感じる。 市議、市長の定年を65歳にする。 発信力のある市出身の方と連携して国内外に向け市をPRしてはどうか。 電子回覧板などは便利かもしれないが、DXが進むと隣近所の付き合いが減り、コミュニティの減退が心配される。デジタルデバイドの対策もしっかりと行なって欲しい。 総合計画を作るにあたって、人を集めてみんなで考えることができるようなイベントを開いてはどうか。アイデアを集められ、総合計画を自分事として捉えられると思う。 資料③アンケートから見える課題に、急増する高齢者への対応とあるが、課題ということであれば高齢者の活用としてもらいたい。 高山駅東西の棲み分けは大切である。商店街は本町、安川、国分寺があり、それを活かすべきである。駅西地区は別の役割で計画してもらいたい。 南地区でイベントを開催する場合は、駅西の民間の有料駐車場を使用して地域イベントを開催している。現在計画している複合施設の駐車場が2階建てと伺っているが、イベント時の駐車場台数を考えると3階建て分の駐車場台数が必要ではないかと思う。また、施設利用者のみではなく地域イベントでも利用できるように考慮してほしい。 駅西の複合施設の駐車場については、附属する駐車場という考えだけではなく、観光客の駐車場、地域イベント用の駐車場などあらゆる利用者を想定して計画してほしい。計画する上では観光客の駐車場利用や巡回バスの利用者など様々なデータを把握し、公共交通システムの視点も踏まえて考えてほしい。 住んでいる人が住みやすいまちと思えるようなまちづくりをすすめてほしい。 中心市街地の空洞化を防ぐための施策が大切である。 観光業に頼らない産業政策が必要である。 奥飛騨温泉郷活性化構想の中で公園整備などがあるが、人口減少において地域コミュニティへの担い手が不足する中で、整備したことにより地域が管理するエリアが広がってしまう。例えば今後整備する堰堤などに自然エネルギーの発電施設を整備して、そこで得た資金を地域の施設管理費として活用するなど人口減少を踏まえた事業計画を検討してほしい。 18歳～22歳は住民票を置いたまま市外で生活しているため、実際に暮らしている人数はこの人口グラフの数値よりも少ないと思う。実態にあった人数を把握したうえで施策を検討してほしい。 今をどれだけ楽しめるかがまちの魅力だと思う。今はそれができないため魅力が感じられない。楽しみを見つけれられるようなわくわくしたまちにしてもらいたい。 コロナ禍に、マスクやワクチンなど海外に依存していることを実感した。世界で争いが発生すると石油や食料が高騰し、生活に影響を及ぼしている。自給することが大切であり、食べ物やエネルギー（電力）などの自給率を目標に掲げ、高山は自給できるまち、安心して暮らせるまちを九次総でPRしてはどうか。 市外から移住したが、外から見ると、高山が誇るブランド（自然、森林、技術など）が高山にはたくさんあると感じている。現に起業などで人が来ており、給料は低いですがそれに勝る魅力がある。魅力はあるがPR不足で、魅力が出し切れていないと感じる。 地域プロジェクトマネージャー制度を活用して地域活性化に取り組んでほしい。 市域を越えての福祉サービスの協体制の強化を図る。 各分野において高齢化や担い手不足などが生じ、単独での運用等が困難となっている。同じジャンルで、支所地域の垣根をこえた合同会社や団体の設立について、市が助成するなど促進を図って欲しい。（例：スキー場の運用を一つの会社で行い、冬季に閑散期を迎える職種（農家やキャンプ場など）との雇用契約により人材を確保するなど） 九次総に白川村との合併を盛り込んでもらえないか検討してほしい。 一之宮公民館や一之宮支所が古くなっている。高齢者が集団生活できる場や避難場所を一ヶ所に整備してはどうか。また、不登校特例教室に通う児童生徒とも交流できる施設になれば良いと思う。 荘川地域の住民は降雪量が多い、寒いなどマイナスイメージを抱く人が多いが、それが逆に魅力的な資源であると考えられる人もあると思う。今後は地域ごとにそれぞれの特色を活かすまちづくりを目指すべきかと思う。市は各地域の魅力あるまちづくりに対して支援してほしい。 荘川の魅力を発信してくれる人材を確保してほしい。 合併時に各町村内において地域が分かれたのが、旧上宝村の地域のみである。事業者数や観光面など経済的に見ると奥飛騨温泉郷地域の方がこの地域の中心であり、今後のまちづくりの中心となることが考えられるため、支所は奥飛騨温泉郷地域に移転するべきと思う。 地域の特色をしっかりと把握して計画を策定してほしい。 地域ごとで関係人口を数値で表すことで、各地域の状況がよりはっきりすると思う。 支所地域については少子高齢化が顕著になっているが、市として市域全体に隔々までサービスを提供することは困難であると思う。 地域の事情、特性に応じて助成制度の要件緩和や補助率を変えるなど地域ごとに優遇処置を考えてはどうか。 高山地域と奥飛騨温泉郷地域を比較するとあらゆるサービスにおいて格差を感じるため、是正に向けた取組みを要望する。 支所地域の住民がずっとその地域に住みたいと思えるようなまちづくりをすすめてほしい。特に道路や水路などのインフラ整備を優先的にすすめてほしい。 地域の資料については自分では収集できないデータもあり非常に参考となる内容である。 今回の資料を事前に配布してほしい。じっくり考えないと将来を見据えたまちづくりに対する意見を思いつくことができない。 この先の人口減少の進行を考えると、コンパクトシティへの方向も考えていかないといけないのではないかと思う。 富山市においては中心部に医療施設や公共交通機関を充実させ、中心部に人を定住させるコンパクトシティに取り組んでいるため、市も参考にしてほしい。 人口減少がすすむ中で、まちはコンパクトにしないと持続できない。持続できない地域などは移住を考えてもらうなど、コンパクトなまちにするための政策を考えてもらいたい。 地域のことは、まちづくり計画に従って行うものであるが、清見地域がこれらの計画においてどこに向かっていて、目に見えた形のものがないと感じる。各地域がそれぞれに計画を組み立て、これらをまとめ上げた総合計画にしていたらと思う。	市政全般に対する意見 まちづくり全般について 広域的な視点によるまちづくり 地域の特色を活かしたまちづくり

No.	分野	意見内容	課題・求められていること
35	その他	まちづくりの進め方について市内全地域において統一的なものではなく、それぞれの地域に見合ったものであるべきと考える。	地域の特色を活かしたまちづくり
		コミュニティの規模や人口、歴史、地域性などを考えると、一律や横並びで課題解決に向かう方が無理である。地域毎・コミュニティ別に対応を考えて欲しい。	
		JRにおいては時間帯によって発券売り場を1箇所しか開設していないことがあり行列になっている。JR東海でインターネットによる切符が購入できるよう市から働きかけてほしい。また、その他の公益企業の問い合わせ先について、インターネットが活用できない高齢者が多いと思うので、対面で相談できる窓口の設置も同様に対応してほしい。	市政以外への意見
		生産年齢人口が15歳～64歳と定義されているが、実際に15歳で働く子どもはいない。例えば20歳～70歳など実態にあった年齢で表記してみてはどうか。	
		宮川緑地の護岸改修がされたが、工事土砂が河床に置いたままだったため、下流域に流れている。	
		生産年齢人口が15歳～64歳と定義されているが、実際に15歳で働く子どもはいない。例えば20歳～70歳など実態にあった年齢で各施策を検討してみてはどうかと考える。	
		行政を通さず、まち協などが独自で地域起こし協力隊を募集することができないのか。	